

2018.5

銀友

No.47

本郷学園同窓会

総会のお知らせ

日 時 2018年6月16日(土) 15:00より

場 所 本郷学園1号館2階会議室

<http://本郷学園同窓会.jp> & <http://www.hongo-gd.net>

p1
ごあいさつ

● 本郷学園同窓会 会長

1956年〓昭和31年卒業 南谷 修 (高校8回生)

● 学校法人 本郷学園理事長

松平 頼武

p3
投稿

● 商標審査官という職業

2005年〓平成17年卒業 宮川 元 (高校57回生)

● 日本文化部誕生四方山話

2001年〓平成13年卒業 中井 秀昌 (高校53回生)

● 農業を始めたさっかけと、これまでとこれから

1997年〓平成9年卒業 薄井 健吾 (高校49回生)

● 走ることは、生きること

1990年〓平成2年卒業 塩家 吹雪 (高校42回生)

● 雑草軍団 本郷高校ラグビー部

1982年〓昭和57年卒業 本木 毅 (高校34回生)

p22
染井能舞台物語パート2

p24
「本郷の先輩たち」

p27
同期の輪

「成人の集い」ほか

p31
OB会通信

「スキー部 創立45周年記念パーティー」

1999年〓平成11年卒業 藪内 宏和 (高校51回生)

p32
トピック

● 第五回本郷医師の会

1996年〓平成8年卒業

本郷医師の会幹事長

杉下

和行 (高校48回生)

p33
2018年度事業計画・予算案

p35
2017年度事業・決算報告

p37
2017年度定期総会報告

1966年〓昭和41年卒業

山際

幸雄 (高校18回生)

p38
2017年度表彰報告

p40
本郷学園同窓会役員(案)

p41
学園だより

● 2018年大学入学試験合格実績

p42
本郷学園同窓会会費納入者一覧

p45
計報



本郷学園同窓会
会長

南谷 修

1956年=昭和31年卒業
高校8回生

今年には春分の日に雪が舞い、更に90年ぶりの暖かさがくるなど、自然の気まぐれに驚かされるばかりです。

母校、染井の桜も満開となり、雨も少なく花も長持ちし、まさに春爛漫。しかし、この天候の変化に身体がついていかれない方もおられるのではないのでしょうか。

社会は、本年も先が読みにくい年になりそうです。年初以来、仮想通貨の裏付けの無い価格の乱高下と、ハッカーによる流出や世界の株高を引張ってきた米国株式相場が暴落、日本にも波及しました。

日本の景気回復は、戦後2番目

の長さと言われていますが？、現在の景気は過度の金融緩和や財政資金の散布に伴う債務の拡大によって支えられています。主要国が金融政策の正常化に動き始めており、経済がどのように変動するか予測できません。

2022年には本郷学園の創立100年を迎えます。学校では「創立100周年」の記念事業を実行委員会が企画しておりますので、改めてご連絡いたします。100年の歴史と絆を改めて感じていただくとともに、人の繋がりが大きな財産になってほしいと願っております。

本年の進学は、特別推薦枠で東大医学部に入るなど、大変、高い水準を維持しております。理事をはじめ教職員のご努力と校内環境の良さによるもので、大変、感謝しております。

同窓会では、卒業生が20歳になった記念に「成人の集い」を開催し、

10年が過ぎました。本年11回目より「はたちの集い」と名前を変えて開催いたします。

第1回「成人の集い」の皆さんが30歳になるのを機に「30歳の集い」を今年から開催するようになりました。

還暦の集い、同期会などと呼びかけをしております。各分野で活躍している在校生の表彰については、昨年度も13件90名の生徒と吹奏楽部および応援委員会に行いました。

秋の本郷祭では、「本郷の先輩たち」と表して各界で活躍している先輩を紹介しておりますとともに、本郷の歴史や育った経緯などを展示しております。是非、お出かけ下さい。

同窓の皆様、母校の活躍を先輩として見ていただき、同窓会の活動を理解し、参加、協力をお願いいたします。

皆様のご活躍とご健勝、弥栄をお祈り申し上げます。

ごあいさつ



学校法人 本郷学園
理事長

松平 頼武

お陰でもあります。

2月に行いました中学、高校の入学試験も、順調に進みました。平成30年度も良い形で始めることが出来ました。

が、その節はよろしくお願いいたします。

学校内のICT化については、これを早急に進めねばと考え、検討委員会を作りました。これについても同窓会の方々のお知恵を拝借願うこともあるかと考えております。

お陰様で学園の評価は高まっていると思います。これは各教員の研鑽による指導力の向上と、全員のチームワークの良さにあると考えます。校内の雰囲気がいへん良くなっていると喜んでいきます。

本郷中学、高校、そしてみじ幼稚園とも、次代を担う素晴らしい人材の養成に尽力しております。

同窓会の皆様には日頃、学園のために多くのご指導、ご支援を頂いて居ります。心から御礼を申し上げます。特に昨年度は、同窓会の方々に学園の教育充実費の寄付をお願いいたしましたところ、多くのご賛同を戴きました。誠に有り難うございました。

2022年は本校の創立100年であり、「創立100周年」に向けて、記念事業を如何におこなうかを検討する実行委員会を立ち上げました。同窓会の皆様方も、古い資料の提示など協力をお願いすることがあるかと思っております。

同窓会の皆様には、本年も、変わらぬご指導と、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

平成29年度の高校卒業生の大学への進学は、たいへん良い結果を出してくれました。これは卒業生各自の努力の結果ではありますが、校長はじめ各教員の立派な指導の

商標審査官という職業

宮川 元



2005年＝平成17年卒業
(高校57回生)

二〇〇五年三月に本郷高校を卒業しました宮川と申します。今回、伝統ある「銀友」に投稿する機会をいただき冒頭御礼申し上げます。

私は現在、霞が関にある特許庁という職場で、「商標審査官」として働いています。皆様は「特許」という言葉は聞いたことがあると思いますが、この「商標」という言葉になると認知度は低いかも知れません。例えば「SONY」や「TOYOTA」といったブランドが商標に該当します。本郷の卒業生の皆様も働いている企業や団体にもその組織のロゴマークがあるかと思えます。その横に「TM」や丸で囲まれたRマークがついていることがあるかもしれませんが、あのマークは「商標権を取得していますよ!」とアピールするものです。

商標は特許庁での審査を経て登録することで、「商標権」という権利になります。例えば「自動車」の分野で自分の

商品名を商標権として保有していれば、仮に自分と全く関係のない第三者が模倣して同じ商品名で「自動車」を販売しはじめた場合、その販売を差し止めることができます。また、私たちが普段何気なく使っている言葉でも、実は商標登録されている、という言葉も多くあります。例えば「宅急便」という言葉は、ヤマトホールディングス株式会社が保有する商標権(図一)で、他の会社が輸送サービスの分野でこの言葉を無断で使った場合、商標権侵害になる可能性があるわけです。

このように権利行使を伴う商標権は強力な権利です。そのためどんな言葉でも登録できる、というわけにはいきません。他人がすでに似たような言葉を権利化していたり、誰しもが使う商品の品質をそのまま表現したような言葉は、登録を認めないという判断がなされることもあります。その登録の可否を判断して

いるのが、私たち「商標審査官」です。

(図一)ヤマトホールディングス株式会社登録商標

宅急便

特許庁と知的財産権

ここで少し特許庁と知的財産権の紹介です。特許庁では知的財産権のうち、「特許権、実用新案権、意匠権、商標権」の四つの権利に関する業務を行っています。具体的には、出願の受付から始まり、審査官による審査を経て、権利が登録されるまでの一連の業務を全て特許庁で行っています。それに加えて、発展途上国を商標制度確立という法的な観点から支援したり、企業や学生の人材育成を目的としたセミナーの実施など、知的財産権に関する政策的な事項についても、特許庁が中心となって進めています。

知的財産権を自動車を例にとつて説明します。エンジンや自動制御装置などの技術に関しては特許権や実用新案権、

自動車のデザインに関しては意匠権、商品名としての自動車の名前は商標権が、それぞれ関係してきます。どれかひとつが欠けてもその自動車の販売戦略に支障が出る恐れがあります。仮に自社とは関係のない第三者が自動車のデザインに関する意匠権を先に取得していた場合、その自動車の形状自体を変更しなければ意匠権侵害にあたる可能性があります。開発や販売に大きな影響を与えかねません。その意味でも上記の四つの権利が、企業経営において重要な位置を占めていることがお分かりいただけるかと思えます。

国家公務員としての商標審査官

ここで国家公務員の具体的な業務内容を、私が携わった仕事の三つほどを例にして紹介します。直近では、商標制度がどのように利用されているかの調査、学生や社会人向けの人材育成、商標制度をより良いものにするための研究に従事していました。

第一に、知的財産権の分野には、英語における英語検定、数学における本郷数学基礎学力検定試験(本数検)のような検定試験として、知的財産管理技能検定

という国家試験があります。知的財産権の取得から権利化までの実務、実際の活用場面を想定した契約やライセンスの実務などの技能を測る内容となっています。こうした検定を行うためには、各級に求められる技能の「標準」を定めることが求められます。例えば三級では商標について特許庁に出願ができる人材、二級では商標の出願後の特許庁とのやりとりまでできる人材、といった具合で、「標準」は知財人材スキル標準と呼ばれています。

経済の状況が変化することに応じて、知的財産権の専門人材に求められる標準も変化していきます。この標準の見直しに関する調査研究を行い、時代のニーズに即した標準の作成を目指しました。こうした知的財産権の知識が学生や社会人に教養として認識されるようになれば、日本の知的財産権の国際的な競争力も向上するのではないかと考えています。このように国家公務員の業務は、都道府県単位ではなく、日本全体を対象とした業務に多く従事する点が特色であると言えます。

第二に、知的財産権に関する書籍を

専門で取り扱う「知的財産研究所図書館」という専門図書館が存在します。仕事の関係でこの図書館の司書さんと知り合いになりました。また、「夜明けの図書館」という図書館で働く司書さんに焦点を当てたマンガの著者とも知り合うきっかけがありました。

先日、マンガの著者の方に知的財産研究所図書館をご紹介します。発信力のあるマンガの著者の方に知的財産研究所図書館を知ってもらい、今後マンガの中で取り扱っていただければ、知的財産研究所図書館の知名度も上がり、結果的にこの分野の研究が盛んになったり、実務が広く認知されることにつながるのではないかと考えました。このように普段なかなか出会うことがない人を、国家公務員という触媒を通じて有機的に結びつけることが、私たちに求められる大きな役割のひとつだと感じます。

第三に、私が所属していた部署で行う研究内容は、特許庁が扱っている法律や運用している基準の改正につながる点があります。商標の分野では、家紋(図二)や浮世絵など、歴史的な文化財等の名称や外観が、そうした文化財とは関係の

ない人から出願されるケースが見受けられるようになっていました。そこでどういった基準に基づいて登録の可否を判断すれば良いか、一定の判断基準を設けることが必要ではないかという問題意識のもと、海外の制度や判例などを調査しました。

(図二)家紋の例(松平理事長が当主を務められている四国高松松平家の家紋)



現場で情報収集を行いながら、日々の業務の中から問題意識を持ち、その解決手段として法律や基準を策定する一連のプロセスは、国家公務員ならではの仕事の一つです。そしてそうした法律や基準を通じて少しでも日本を良くすることに貢献できれば、国家公務員冥利に尽きます。その内容は社会に与える影響も大きく高い倫理観が求められることから、常に学ぶ姿勢を持ち、自己研鑽を続

けていくことが求められます。その意味でも国家公務員は常に勉強し続けなければならぬ職業ですが、そのことを楽しむことができる人にとっては最良の仕事です。

将来の目標

私には将来的に大学や教育機関で知的財産権の研究や講義をしたいという夢があります。私としては、少し回り道かもしれませんが、「教育」を通じて知的財産権の重要性を伝え、企業や団体の中で「商標権の視点」を持った人材が活躍することが、結果的には日本経済の発展につながるのではないかと考えています。

私が教育の道に進みたいと漠然と思いは始めたのは、本郷中学一年生のときにかかのぼります。文化祭での「展示」にこだわり、しっかりと物事を調べることを教えてくださった、当時のクラス担任で英語科の嶋田先生の姿を見て、自分も先生のような存在になってみたいと思ったのがきっかけです。大学は商学部に進み、いったんは教職の道とは違う進路を選びました。その後、大学で特許庁出身の教授が開講していた知的財産権に関

する講義を受講したことをきっかけに特許庁に就職しました。そして中学生ころの夢が、実務の経験を教育という形で伝えたいという思いとして蘇ってきたように感じます。

夢は思い描いた時点で実現へと向かっている。自分にとっては、知的財産権というものに触れたときに、夢へのプロセスをイメージして努力することを楽しむ自分の姿を思い描くことができました。私にとって特許庁はさながら「現場のど真ん中に立っている研究室」



中学校の修学旅行。左端が私

です。もちろん本職は特許庁職員です。自身の研究活動は帰宅後か休日集中して行います。商標審査官(特許庁)という職場は、商標の政策が立案される最前線であり、ユーザーである出願人ともたくさん接する機会があります。このような刺激的な研究環境は他にはなく、働きながら様々な情報に触れることができている今の環境は恵まれたものであると思います。

さいごに

特進クラス一期生として共に切磋琢磨した学友、今でも家族ぐるみで一緒に旅行やテニスを楽しむテニスの親友、学問への道に導いてくださった嶋田先

日本文化部誕生

四方山話

中井秀昌



2001年=平成13年卒業
(高校53回生)

このたび銀友編集委員の先輩からご連絡頂き、本郷在学中に創部した日本文化部、私の近況についてご紹介の機会

を得ましたこと、まず以て御礼申し上げます。

私は幼少期自宅にあった箏で遊ぶ

生をはじめとする本郷学園の関係者の皆様、そうしたすべての人との出会いが今の私を形作っています。直近の業務でも、「マンガ」という観点で対談を企画することができたのは、秋本治先生や原哲夫先生といった偉大な漫画家を輩出している本郷高校のDNAのおかげだと思えます(笑)。

これからはOBのひとりとして、お世話になった本郷学園への恩返しをしていきたいと思っています。まずはその一歩として、本稿が読者の皆様の知的財産権との出会いのきっかけになれば幸いです。



高校時代の友と旅行。前列左が私

ち、7歳の頃から稽古を開始しました。一般的に箏は「和装の女性が嗜むもの」というイメージがありますが、実際中高年女性の割合が高く、「年の近い仲間と演奏出来たら」と思い続けていました。

中学二年だった1995年の文化祭で、英会話の崎岡真紀子先生、ケビン・オラフソン先生が箏・三味線を演奏されてい

るのを聴き、「来年は一緒に何かやりましょう」という話になり、1996年に歴史研究部発表の一角で演奏の機会を得、1997年には級友2名を巻き込んだの演奏会開催にこぎつきました。その頃、寄席落語研究同好会のメンバーと合同で福祉施設慰問活動を開始し、後の日本文化部の礎となりました。

高校一年となった1998年、寄席落語研究同好会と箏・三味線有志の両方を担当頂いた社会科の増野祐二先生から、両者を統合の上で日本文化(古典的なもの)を好む同人が集う場と位置づける案をいただき、双方合意の上で「日本文化同好会」立ち上げが実現しました。後に増野先生から「少数派の生徒にも学校内に『居場所』が必要」という趣旨のお話を伺いました。当時の私は箏以外に特技はなく、頑固で人見知りという変わり者でしたが、後になってその意味が解るようになり、増野先生は私達に『居場所』を用意し自己表現の場を与えて下さったのだな、と深く感謝しています。

その頃の大きな悩みは「楽器の確保」と「コーチング」でした。自宅の楽器をあらったけ持ち出し、それでも足りません

で、骨董市へ行き格安の楽器を探したり、父母の学生会報に楽器寄贈を呼びかけたり、文化祭模擬店で利益をあてに先生からお金を前借りしたり。特に文化祭では演奏会をしつつ模擬店(ラーメン屋)をしつつで、今考えると随分無茶なことをしていたなど呆れるばかりですが、若さと周囲の支えで乗り越えることができ、今となっては良い思い出となっています。コーチングは、私自身箏の生田流筑紫会師範補でしたが、筑紫会以外ほとんど知らなかったため様々な手段で勉強しました。特に役立ったのは全国高等学校総合文化祭(IIインターハイの文化部版)で、貯金をはたいて山形市まで聴きに行きました。全国のレベルの高さに加え、多種の曲があること、同じ曲でも表現方法に大きな差があることなどに感嘆し、それらをコーチングに活かしました。

1999年には父母の会に「おことの会」が発足し、文化祭での共演など活動も充実していききました。「おことの会」からは多少の楽器使用料を頂き、それを楽器メンテナンス費の一部に充当できたことで、文化祭模擬店のメニューを「ラーメン」から負担の少ない「すいとん」へ変更し、

より演奏に集中できるようになりました(ちなみにラーメンはパドミントン部に譲り、以降定番メニューとなりました)。この年は東京都高等学校文化連盟中央大会に初出場し、「本郷の演奏にクギ付けとなり、会場全体が心からの拍手で溢れた」と次点(3位)の評を頂きました。この頃、福祉施設慰問は試験休み期間の定例行事化し、コーラス部や吹奏楽部とのコラボレーション企画も実現し、多くの皆様に喜ばれました。同時に、私達自身も、自分達の演奏が喜ばれることにやりがいと喜びを感じていました。こうした活動が実り、プルデンシャルボランティアアワード奨励賞、高校生新聞社賞、東京都高等学校文化連盟賞を受賞しました。

2000年には5名の新入部員を迎えるとともに、同好会から部に昇格し、晴れて「日本文化部」が誕生しました。男子校で箏・三味線に取り組むというのは全国的にも例が無く、2002年1月2日放送NHK教育テレビ「初春・江戸のにぎわい」で生演奏したほか、業界誌「邦楽ジャーナル」に大きく取り上げられました。最近では箏曲部を舞台とした連載漫画「この音とまれ!」が大ヒットとなるな

ど、箏・三味線の楽器人口における性差は薄まりつつあるように感じます。

ところで、皆様は箏というところのような曲をイメージされるでしょうか。お正月に街やテレビで流れる「春の海」や「さくら」などが有名ですが、元々箏は奈良時代に中国の唐から伝えられ、雅楽を演奏する楽器の一つとして楽しまれてきました。室町時代後期に入ると、歌の伴奏楽器として活躍するようになり、江戸時代初期には八橋檢校(やつはしけんぎょう)が音楽の教科書にも取り上げられている「六段の調」を作曲し、箏単独でも奏されるようになりました(余談ですが、京都を代表するお菓子「八ツ橋」は、八橋檢校を偲び箏の形を模したことに由来する説があります)。江戸中期以降は地唄三味線に箏と胡弓(後年は尺八が主流)の組み合わせ、いわゆる三曲合奏が盛んに行われました。明治以降は「春の海」を作曲した宮城道雄をはじめとする作曲家により、西洋音楽の影響を受けた現代曲が次々と作曲されていきました。

このように長い歴史を経て今に至る箏ですが、今の中高生には耳に馴染みにくく、部活動のきっかけとしてどのような

曲を取り上げるかが大きなポイントとなります。日本文化部では、流行歌なども積極的に取り入れつつ、古典から現代まで様々な音源を聴きながら、部員自身が入った曲を採用するスタイルとされています。このためコーチは毎回準備に追われますが、他校と比べ卒業後も箏・三味線を続ける部員の割合が高く、楽器の魅力を伝えられたという思いが疲れを忘れさせてくれます。

日本文化部はこれまで何度か新入部員ゼロという年もありましたが、休部となることなく現在も8名の後輩達が練習に励んでいます。日々の活動に加えて夏の合宿、秋の文化祭に都大会と、1999年から今に至るまで毎年欠かすことなく取り組まれています。その間長年にわたり顧問を務めて頂いている英語科の新井奈津

子先生、温かく見守り支えて下さっている諸先生方、コーチの先生方、縁あって箏・三味線に取り組んでくれた後輩達、皆様への感謝の気持ちで二杯です。居場所として、自己表現の場として、そして人間形



FDAのチェックインカウンター前で行われたミニ演奏会(各校之原市の静岡空港)

子どもに夏子ミニ演奏会も静岡空港
各校の市街の静岡空港
で20日、クリスマスのイベントがあった。子どもたちに就航先の夏子が配られたり、フジ

子先生の有様によるミニ演奏会が開催されたいずれも、多くの観客で賑わった。
また、べいや月組など、就航先の北南道や開港場、静岡、沖崎、台端い」と話した。
強かな拍手を受け、河本さんは「一歩前の思い出になればうれし

の韓国、中国の夏子が先着400人からアフレゼントされた。子どもたちは静岡空港を背に「サングラス」と「精進記」を撮影も楽しんだ。
FDAのチェックインカウンター前で、時とどろきの演奏を披露したのは中井尚志さん(35)と河本和寛さん(27)。静岡空港の夏子さんは「愛むじも生で聴く機会が少な

箏を演奏するのが私

成の場として、日本文化部がいつまでも存在し続けることを願っています。

私自身は卒業後も暫くコーチを務め、就職を期に退きましたが、時折合宿には参加しています。水を吸うスポンジの如く急成長する部員の姿に驚かされ、自分も負けていけない、と毎回刺激を受けています。また、本格的な演奏を学ぶため大学在学中にNHK邦楽技能者育成会を卒業し、現在は会社勤めの傍ら各地の演奏会に出演、2014年には初リサイタルを東京・静岡・名古屋で開催できました。第二回リサイタルは今年8月25

日土曜日(東京・かつしかシンフォニーヒルズ小ホール)、8月26日(名古屋・カルチパ、新川ホール)、9月2日(静岡・マリナート小ホール)に開催します。加えて、一般の方にも箏の良さを知ってもらいたい思いから、空港や博物館、百貨店など様々なイベントでの演奏も続けています。

2014年には本郷学園2号館竣工記念講演会で講演・演奏させていただきました。将来的には一般の方や急増する訪日客が箏を知る機会を増やすための施策にも取り組みたいと思っています。海外を訪れるとその土地土地の音楽、舞踊、

スポーツなどの常設企画が有り気軽に鑑賞出来ることが多いですが、私の知る限り、箏の世界には歌舞伎や相撲の様な常設企画はありません。専用の会場・演奏者・スタッフ・海外を含めた販路確保などハードルは高く、現状の会社勤めでは難しいですが、適正な対価を支払い・受取りつつ文化交流できる仕掛けを作ることが出来たら、と考えています。

色々書かせて頂きましたが、今の自分があるのは本郷での6年間があつてこそで、「出会い・縁に恵まれているな」と改めて感謝の念を強くしています。

農業を始めたきっかけと、 これまでとこれから

薄井健吾



1997年=平成9年卒業
(高校49回生)

旧姓を社名に入れている。

農業とのつながりは妻の実家が農家だから。休みの日に実家に来ては、義父の農業を手伝っていた。兼業農家である義父は、人手が必要なきには、親戚や友人を手伝いと呼ぶが、私もその手伝いとして農業に関わっていた。同時に、労力不足と使い切れない農地、それに天災や経年劣化による設備の廃棄を目にし、農家として縮小の一途を辿る姿に切なさを感じていた。

本郷に歩いて通えるおばあちゃんのお宿、巣鴨出身で、農業とは無縁だった私が、今は山武市で田畑に囲まれて、株式会社TKG小川農園の代表を務め、

農業に心身ともに鍛えられている。田畑(Tahata)で輝く(Kagayaku)元気者(Genkimono)、TKG小川農園。小川は妻の旧姓、地元愛というか、実家愛で妻の

そこで妻の実家の農業を何とかしたいという漠然とした思いから農業についてのあれこれを様々な角度から調べてみた。そして、ガーデニングが好きだったこと、農業は文科系の私にできる唯一のモノづくりだと考えられたこと、農地・農機具等必要なものは全て妻の実家に揃っていたこと、これらのことから農業に事業としての成功の可能性を見出し、農業を始めることを決めた。

実家を手伝うのではなく、自分が農業で頑張ることによって妻の実家を盛り上げる。義父とは経営を切り離して農業を始めた。同時に山武市の実家近所に引越した。どこかで研修したのでもなければ、農業科や農学部出身でもない。義父から教わったことと、結婚してからの数年間で、手伝いながら習得した技術と知識が全て。これで一般的な農家をやったのはただの新人以下かもしれない。しかも、その一般的な農家は事業としては成功しているとは言い難い。同じことをやっつては意味がない。そして選んだのが、効率的かつ省力的な農業の一つ施設内での水耕栽培だった。土が水に変わっただけの栽培方法は、水中の栄養分を数値として見れることや、パイプハウスと水槽という閉鎖空間であることから、管理が

しやすく農作物を作りやすい上に、外的要因の影響を受けにくい。誰にでもやれる農業と言えた。選んだ作目はサンチュ。周辺どころかほとんどライバルが居ない作目を選ぶことで、新人であることの不利を無くした。実際には、新規就農の条件面や水耕設備導入の費用面から、スタート時点ではパイプハウス3a(内、水耕設備1a)、露地畑47aだった。それでも売上げの面では面積のような差はなく、方向性としては間違っていないように思う。自分の地元ではないが、妻の地元で農業を始めたということは大きなメリットになった。ご近所さんもJAも出荷組合もどこに行っても自己紹介すれば顔がきく。「〇〇さんの息子さん」で話が通じるのは、外部の者に対して閉鎖的な村社会においてはありがたい話だった。

自分がこの水耕栽培で成功すれば、このやり方、すなわち生産から販売までの成功例として、周辺農家に展開し、集落全体を盛り上げる。さらにはその地域を盛り上げる。地域を盛り上げたら、さらにこのやり方を事業モデルとして、別の地域の農家を取り込んで、その地域を盛り上げる。次々に農業で成功し、盛り上がる地域を広げていきたい。農作物を作ることはみんなが出



ハウス内での水耕栽培。自慢のサンチュとリーフレタス

来る。でも農業で地域を盛り上げることはなかなか出来ない。であれば、私がある中心となつて、農業でこの田舎を元気にしていきたい。

そのために選んだのが起業。法人として、会社組織としてやることで、一農家の個人事業では出来ないこと、やりづらいことをやりやすくする。例えば、対会社の営業だったり、金融機関の融資だったり。協力者や就農者が増えても仲間に入れやすい。もちろん農業において法人が新規で参入する条件や、法人であることの負担もある。それでも将来を見据えると、法人としてスタートしたことはわるくはなかった。目指すところは「大農家」ではなく、「大企業」である。現在就農4年目、すなわち起業4

年目。法人であること、またその代表であることで、サラリーマンや個人事業では得られなかったであろう多くの経験と知識を手に入れさせてもらっている。大学では社会学部で経営関係を中心に専攻していた。大学時代に得た知識が今さらのように役に立っている。

そんな私だが、大学では早大陸上同好会とハンク・パラグライダークラブに所属し、勉強よりもサークル活動に力を入れていた。陸上では1000mを専門とし、学生時代には短距離ランナーでありつゝも、フルマランも完走した。1000mは10秒台のベストを持ち、フルマランは3時間半を切る。さすがにもう10秒台はとんでもない話だが、中学から始めた陸上は39歳になった今も続けている。本郷中陸上部の恩師、福島先生とは今でも年に一度、地元豊島区の大会で顔を合わせる。先生の目があるとかっこ悪いところは見せられない、と勝手に緊張感を味わっている。

陸上と同時にもう一つ、スカイスポーツにもハマった。大学から始めたパラグライダーでは早稲田大学のエースとして活躍。マイナススポーツゆえに、体育会だったり同好会だったりと大学ごとに学内での立場が

異なる中、同好会の早稲田で、4年時の2002年には全日本学生選手権に参加し、トップ10入りを果たした。さらに卒業後の2005年には、当時働いていた会社の勤務地、三重県の代表として日本選手権にも参加し、海外からの招待選手と一緒に飛び、世界の凄さというものを実感した。空からは最近離れてしまっているが、パラグライダーで初めて空を飛んだときは人生の中で大きく印象に残っている。農業を始めるきっかけのつにもなった妻と知り合ったのもパラグライダーが縁だ。関東の大学の多くは筑波山近くのフライトエリアで活動している。他大学とも活動の場が一緒のため、大学やサークルの垣根を越えて友人が増える。その他大学の友人の一人が今の妻となった。

大学卒業後は大手自動車部品メーカーに勤務し、妻も大手商社に勤務していたが、実は結婚式のお互いにお互いに無職というまさかの状態だった。理由は新婚旅行のため。行き先は世界。仕事を辞めて、世界一周の新婚旅行へ行ってきた。2009年10月から2011年1月にかけて400日超、訪れた国の数は37か国。やりたいことをやるために世界をまわってきた。世界一周の

きっかけは妻の一言。妻の「世界一周に行きたいんだけど、どう？」に、私「いいよ」と。インドネシアのバリマランでトップを走り、マレーシアの青い海でダイビングのライセンスを取り、ネパールでエベレストをすぐ近くから見上げ、ヒマラヤの空をパラグライダーで飛び、ツール・ド・フランスのゴールをシャゼリゼで観戦し、アフリカ大陸最高峰キリマンジャロを登頂し、南米ボリビアのデスロードを自転車で駆けおりた。泊まった街の数、133。訪れた世界遺産の数、46。登った山の数、14座。潜った海の数、9つ。世界一周の話だけでいくらかでも話してしまうので、興味がある方はぜひ下記のHPをご覧ください。



エベレストの展望台、カラ・パタール(標高約5600m)にて

「世界周二人合宿」Running Planet
 ~ [http://runningstars.web.fc2.com/
 world.html](http://runningstars.web.fc2.com/world.html)

世界一周の新婚旅行から帰国後、すぐに農業を始めたわけではなく、帰国後に就職した会社でたまたま新規事業として農業をやるというプロジェクトがあり、その担当になつていった。その立場から働きながら農業についていろいろ調べることができ、結果として起業につながった。農業を始めて4年目の現在、水耕設備は2倍の2aに、畑の面積は3倍超の1.6haに拡大している。知名度が上がってくると、近隣の余っている畑を使ってくれないかという話が転がってくるようになった。村社会にも馴染んできた証拠だ。各地のイベントや朝市での出店の話も来るようになった。昨年は地元巣鴨・大塚でのイベント出店のお誘いをいただき、地元凱旋のような気分が出店させてもらった。大盛況で、友人・知人の顔も多く、生まれ育った地のありがたさを実感した。これがきっかけで今年も巣鴨・大塚ですでに3件のイベント出店が決まっている。子どもの頃から知られている方々に成長した姿を見せるいい機会になつて嬉しい。

サラリーマンの経験と、世界周した行動

力を武器に、まだ小さい子どもたちと4人家族になった今を突き進んでいる。農業は本当に思うようにいかないことが多い。事業としては不安定だ。それでもせっつく飛び込んだ新しい世界。その大変さを楽しんでいる。今の農業には発展と改善の余地。そして可能性が満ちている。「農業がもっと愛されるために」私はここ千葉の山武市から、よりいっそうの努力と挑戦をし、これからの農業を盛り上げていく。

最後に、当農園では、野菜の個人への宅配、店舗への納品、農業体験、イベントへの出店等、行っております。農業を使わない水耕栽培と、化成肥料も使わない畑で、ベジックな野菜から珍しい野菜まで、年間約50種類の野菜を作っています。安心・安全な旬の野菜の詰め合わせを産地からお届けします。何かに興味を持たれた方や、同窓生の一人として応援して下さい方は、Facebookページ(<https://www.facebook.com/kgogawafarm/>)に「さね」をぜひお願いします。なお、お問い合わせは以下アドレス(kgogawafarm@gmail.com)へ。題名に「いいね!」、内容にお名前を書いてメールを下さい。当農園の野菜配達・配達について、案内を記載して折り返します。



マラソン大会には家族で参加。2歳からもう走ってます

2018年2月に生まれたばかりの第二子がもう少し大きくなったら、夫婦でアスリートを完全復活したい。マラソン、自転車、パラグライダー、登山。これだけ一緒にこなす夫婦はそうはいないはず。そしてずっと続けている陸上。将来の目標は、息子たちと4×100mリレーを組んで走ることだ。親子でバトンを繋げたらそれもまた感動する。もともと子どもたちが陸上を選択するかはわからないが、そのためにも最低でもあと10年ちょっとは100mを走り続けなきゃならない。さらにその先には、家族で世界一周へ。そう、世界一周目の旅に出られるように、代表不在でも回るように、会社を、農業を盛り上げていきたい。

走ることば、 生きることば

特定非営利活動法人
シオヤレクリエーション
クラブ 理事長

塩家吹雪



1990年＝平成2年卒業
(高校42回生)

はじめに

私の人生は、陸上とともにある。自分自身を陸上なしに語ることはできない。というより、陸上を語ることで塩家吹雪という人間を表現することができる。陸上に救われ、陸上を通して多くの人と出逢い、様々な経験をさせてもらい、沢山のことを学んだ。陸上と出逢っていないから・・・今の自分はない。もしかすると、今ここに存在すらしていないかもしれない。大袈裟に聞こえるかもしれないが、本当のことである。

陸上との出逢い

陸上を始めたのは、中学生になってからだ。決して足が速かったわけではないが、親が学生時代に陸上をやっていたことを知っていたので、私もやってみようと思った。この選択が、その後の私の人生を大きく変えることとなる。

小学生の頃、両親が離婚をした。私は、父親と弟との三人で生活することになった。

当時は今ほど離婚率が低くなく、私の周りには一人もいなかった。そのことが原因で私も弟も同級生からいじめを受け、先生にまで差別的な扱いをされた。本当に苦しかったが、父親に泣きつくことはせずに兄弟二人で耐え続けた。死んでしまったら楽になるんじゃないかと本気で考えたこともあったが、負けたくはなかった。

中学生になり陸上部に入ると、顧問の先生がこう言った。「スポーツの世界では、生まれ育った環境で評価されたりはしない。勝った人が評価される。だから、塩家君も頑張りなさい」。この一言が、私の人生を変えた。足が速くなれば、きっと周りの目も変わる。そう思って、とにかく一生懸命に練習をした。そして、スポーツの名門校である本郷高校へと進学することができたのだ。いつの間にか、いじめられることもなくなっていた。

クラブチームの設立

高校を卒業し専門学校へと進学した私

は、大学の陸上部や実業団に所属する選手のように整った練習環境が与えられるわけでもなく、どのように競技を続けていけばよいか模索していた。そして、1990年に仲間数名と、私が一昨年度まで代表を務めていた陸上チームA.C.・K.I.T.A.の前身となるクラブチームを立ち上げた。専門学校卒業後、働いて貯めたお金を持って単身渡米。屈強な身体のアメリカ人選手たちと肩を並べての、武者修行の日々。そして、日本選手権に出場できるまでになった。結局、オリンピック出場という夢を叶えることはできなかったが、高校時代にインターハイにすら出場しておらず、ずっと選手としては全くの無名であった私が日本選手権に出場できただけでも、喜ぶべき稀有なことであった。やっぱり練習は、努力は嘘をつかない。そう実感した。

障がい者陸上との出逢い

陸上チームを立ち上げて以降、高校や大学の卒業後も競技を続けたいと望む選手を勧誘し、少しずつチームを大きくしていった。ある日、いつものように競技場へ練習をしに行くと、一人の選手が目にと留まった。これが、私の人生を大きく変える出逢いになることは、知る由もなかった。

とてもよい走りをしていたので、その選手をチームに勧誘しようと思いを掛けた。すると、彼はこう言った。「僕には視覚障がいがあり、いずれ何も見えなくなる。そうになったら、一人では走れないから伴走者が必要になる」。当時の私には、視覚障がいや伴走者に関する知識は全くなかった。しかし、「そうなったら俺がその伴走者つてのにならから大丈夫」。私はそう答えた。チームの一員になることに、障がいがあるのかなとか、そんなことは関係なかった。速く走った者が評価される、そういう世界だから。

一緒に練習をしていく中で、激しいトレーニングが彼の障がいの進行を早めるということを知った。おそらく大半の人は、少しでも症状を悪化させないようにするのだろう。だが、彼はトレーニングを怠ることはなかった。目が見えなくなるかもしれないのに、なぜ走り続けるのか、私は彼に尋ねた。すると彼は「走ることが好きだから」。そう答えたのだ。この実にシンプルな理由に、私は衝撃を受けた。それは、長年の競技生活の中で私が忘れてしまっていた感覚であった。「走ることが好き、走ることが楽しい」。そういう子どもの頃の気持ちを、彼の言葉が思い出させてくれた。

やがて彼は全盲となり、私が彼の伴走者となった。世界の舞台を目指し、二人三脚で過酷なトレーニングに励んだ。そして、2004年アテネパラリンピック、私たちは決勝のスタートラインに立っていた。なんとも言えない緊張感と高揚感が身体中を走り、鳥肌が立った。結果は8位入賞。二人とも満足だった。これ以上できないと思えるまでトレーニングをし、本当に全力を出し切つての結果であった。オリンピック出場という私のかつての夢は、パラリンピック出場という別の形で叶うこととなった。

その後も、他の選手の伴走を続け国際大会でメダルを獲得するなど、私は伴走者としての実績を積んでいき、様々な国際大会において日本代表のコーチや監督を務めるようになっていった。そして、2012年ロンドンパラリンピック、初めてパラリンピック日本選手団のコーチに任命された。2016年リオパラリンピックでは、長年指導してきた選手が銅メダルを獲得し、文部科学大臣よりスポーツ功労者として顕彰状をいただいた。

一見すると順風満帆な競技生活であったかのように思えるかもしれないが、そんな簡単な人生ではなかった。2004年、私がアテネパラリンピックで走る姿を見ることが

く、最愛の弟が他界した。サルコイドーシスという難病であった。子どもの頃から、どんなに辛い時も一緒に乗り越えてきた弟との絆は非常に強く、そんな弟の死は、悲しいという単純な一言では到底表すことのできないものだった。私は一生分の涙を流した。

だが、走ることをやめるわけにはいかな



2012年ロンドンパラリンピックにて(前列中央)



2004年アテネパラリンピックにて伴走(右)

た。アテネパラリンピックの選考会も目前、伴走者の私は選手の人生を背負っていると言つても過言ではなく、競技場へと通い続けた。そして、弟の名前をスパイクに刻み、パラリンピックの舞台に立ったのだ。私のことを一番応援してくれていたのは他でもなく、弟であったから。病気を発症してから弟はベイスニーカーを入れ、障がい者手帳を持つて生活をしてきた。そういう意味でも、私が障がい者スポーツに携わることは運命だったのかもしれない。

障がい者スポーツ発展のために

現在、私は日本パラ陸上競技連盟において若手選手の発掘を担当している。また、塩家ランニングクラブ(SRC)として数年前よりジュニア向けの陸上教室を開始し、2016年4月にNPO法人化。現在は、特定非営利活動法人シオヤレクリエーションクラブ(SRC)の理事長として、トップアスリートだけではなくジュニアの育成・指導や講演会活動などにも力を入れている。NPO法人となつてからは陸上だけではなく、アスリート・スポーツ交流会、田植え、稲刈り、潮干狩り、餅つき、スキーなどといったレクリエーションイベントも開催し、障がいの有無にかかわらず子どもたちが様々な体験ができ

るような活動を行っている。

現在、会員は約100名、約7割が障がい児・障がい者だが、もちろん障がいの有無や種類に関係なく、一緒に汗を流している。大会主催団体等にお願いをし、日本で初めて様々な障がいの子どもたちが健常者の大会に出場するなど、革新的な取り組みを行っている。A・C・K・I・T・Aに障がいを持つ選手が所属し始めた時もそうであったが、関係団体の理解を求めため、何度も何度も断われないながらも足を運んで働きかけ、障がいを持つ選手が健常者の大会にも出場できるようにすることで、目標を持つて取り組むことができる環境をつくり上げてきた。

以前、陸上教室に参加している一人の発達障がい児の親御さんより、こんな喜びの声を頂いた。「うちの子は痲癩がひどくて悩んでいたんですけど、陸上教室に参加するようになってからほとんど痲癩を起さなくなりました」。陸上教室に参加している子どもたちを見てみると、回を重ねる度に成長していることがよくわかるが、実際にこういった喜びの声を頂くと、この活動は続けていくべきものだと思感する。

日本の社会は、障がい者に優しい社会だとはお世辞にも言い難い。障がいがあるこ

と、障がいのある子どもを産んだことを不幸だと思つている人が数多くいる。もしかすると、そういう人の方が多いかもしれない。でも、それではいけないと思う。障がいはい個性。一人でも多くの人が障がいがあること、障がいのある子どもを産んだことを幸福だと思えるよう、これからも活動を続けていきたい。

新しいことを行うと必ず風当たりは強い。簡単な道ではないことは十分にわかっている。だが、誰かが動かなければ世の中はずっと変わらないまま。きつと変えられると、私は信じている。協力してくれる沢山の仲間がいるから。それに、昔と変わらずいつだって、そんな私のことを弟が応援してくれているから。私は生、走り続けるのだ。



2016年陸上教室の子どもたちと大会会場にて(左端)

雑草軍団

本郷高校ラグビー部

本木 毅



1982年=昭和57年卒業
(高校34回生)

私は、中学校は練馬区立開進第4中学校に通っていた。当時私は剣道部に所属。剣道部を練馬区で初の優勝に導き、個人では武道館の全国中学校錬成大会でベスト16に入った東京チャンピオンで、練馬区にある古豪東松館道場で、部活以外にも日々精進していた、ちょっとした少年剣士であった。

昭和54年(1974年)4月本郷高校に入學すると、既に私の実績が剣道部に伝わっていて、すぐに勧誘を受けることになる。元々部活はやるつもりであったので、剣道部にはすぐに入部するのだが、入った後後悔することになった。当時の剣道部はひどく弱い集団だった。唯一活躍できたのは個人戦。豊島区の高校剣道大会で、1年生ながら優勝を飾ることができた。これが高校時代の剣道部での唯一の勲章である。

「ラグビーとの出会い」

そんな悶々とした高校生活を送っていたのだが、唯の楽しみがあった。幼少期から音楽

(ピアノ)に親しんでいたこともあり、中学時代に音楽素人の友達を誘ってバンドを結成。そのバンド仲間と週末には自宅で練習し、3月に御茶ノ水にある楽器店のホールで、単独ライブを行うことを目標に頑張っていた。

洋楽ではデイープ・パープル、サントナ、邦楽ではツイストとか、プリズム、日野皓正など幅広く演奏する楽しいバンドだった。高校から加わったメンバーの中に、3人のクラスメートもいた。現在プロのトランペット奏者である、吹奏楽部の藤井陽。大手部品メーカーで活躍する、陸上部のキーボード奏者遠矢工。そして、卒業後「遥かなるニューヨーク」で潮賞を小説部門で受賞した、リードギターの橋本康司郎の3名である。

2学期のある日曜日の剣道部の練習で、いつものように銀杏並木をジャージ姿で歩いて部室に向かおうとしていた時、右前方にある体育教官室から、担任の西川路先生が叫んでいる。「おい本木!ちょっと教官室に来

て!。なんだろうと思いつつ行ってみると、そこには西川路先生と、あの強面の大浦先生が座っていた。

西川路先生「大浦先生、こいつがうちのクラスの本木です。足はクラスで一番早いです」

大浦先生「いや、今窓から校門の方を見ていたら、おまえさんが入って来てな、西川路先生に、あの大学生は誰だ?と聞いたのだよ。そうしたら、うちのクラスの本木ですよ。と言うじゃないか。で、呼んでもらったのだ」

私「はい……」

大浦先生「単刀直入に言うと、おまえラグビー部に入らないか」

私「え?ラグビー部ですか?自分は今剣道部に所属していますので無理です」

大浦先生「剣道部の顧問には俺からきちんと話すから、心配するな。おまえがもし来てくれたら、本郷高校ラグビー部も全国の花園大会に間違いなく行ける!」

私「ちょっと考えさせて下さい」

この全国の二文字が、当時悶々としていた私の心に響いた。だが、ラグビー部の練習は並みじゃないと聞いていたし、もしも入ったら、単独ライブに向けての練習が出来なくなってしまう。私はバンドマスターだったので、いまこの段階で脱落することは、他の仲間を裏切る

ことになるので無理だった。親とも相談しないと、その場での回答は避け、持ち帰らせてもらうことにした。

しかし、この時の全国の舞台に行けるといふ、恐らく大浦先生のなんの根拠も無い勘だけの言葉に誘われ、信じてやってみようという気になった。単独ライブの日程が3月20日だったので、4月1日からの入部で良ければという条件で、入部することになった。これがラグビーとの出会い、いや、私の人生を変えた大浦先生との出会いだった。

【初の楕円球と仲間たち】

当時のラグビー部は、各学年25名前後でトータル75名位の所帯の部活動で、昭和53年度(1978年度)全国高校サッカー選手権3位のサッカー部に次ぐ、大所帯の部活動であった。私の当時のポジションはセンター。背番号でいうと12番、13番がそうである。当時の3年生のセンターは、大木先輩と石田バイスカヤブテンの二人。私の相棒となるもう一人のセンターは、サッカー部に入ろうとして、大浦先生に強引にラグビー部に入部させられた千葉(帝京大学)だった。この三人と一緒に、切磋琢磨する日々が続いた。大木先輩は同じ12番となるので、2年生の新入部員の私に、とても親切に指導してくれて、あつという間にパス

も、当たりもできるようになったことをよく覚えている。その時のパスの特練に付き合ってくれたのが、同級生のスタンドオフ小林明治(大学)、H池澤(帝京大学・東芝)、WTB清水(東洋大学)、千葉である。私もやる以上は真剣だった。

【ライブに惜敗】

全国大会の経験は無いとはいっても、当時の本郷高校は、東京で常にベスト4以上に食い込む実力は持っていた。この年の全国高校ラグビー東京都予選でも、本郷は順調に勝ち進み、前年の優勝校である目黒高校の優勝枠のため、東京第二代表枠を大東文化二高と、外苑前のラグビーの聖地、秩父宮ラグビー場で争うことになった。当時の大東文化二高と本郷高校は全国大会目指し、お互い切磋琢磨する間柄であった。ただ、試合の結果は、高校日本代表であった大東文化二高の葛西キャプテンNo.8で、のちの日本体育大学・サントリー(日本代表)の活躍に押され、17-10で惜敗した。高橋キャプテン・石田バイスカヤブテンの悔し涙を見て、目頭が熱くなった。

【チャレンジ】

この敗戦をきっかけにして、大浦先生の花園への想いも、より一層強くなったものと思う。2年生の2学期の11月に、東京都の決勝

での敗戦後、3年生は引退し、我々2年生の代が最高学年になった。同じ年の寒い冬から、大浦先生と我々のS56年組のチャレンジが始まった。大浦先生は、日体大繋がりをつかって、当時の二大勢力である、目黒高校と国学院久我山高校の胸を借り、何とか全国の仲間入りを果たすことを目標に、八幡山の明大グラウンドで土日に鎧を削る両巨頭の門を叩いたのだ。

しかし、最初はなかなか試合すらさせてもらえず、たまに2軍の選手と試合をする程度であった。やがて1軍のチームと試合をさせてもらえるようになった。

毎週土日の八幡山の三つ巴は壮絶極まりないバトルの連続で、試合が終わって、着替えて帰ろうとしている相手に向かって、もう一本をお願いしに行くこともしばしばあった。時が進むにつれ、我々がそのもう一本をお願いされる側にだんだんとなって行ったのが、我々の代が3年生になった頃である。

東京都の春季大会が始まった。当時は現在とは違い、ラグビーの人氣は意外と高く、東京都にラグビー部のある高校は120校以上存在していたのだ。その頂点を決める大会である。新人戦で全勝の好成績を上げた我々は、4強の一角を占めるシード校になっ



初優勝記念写真。松平頼明校長とデザイン科の前で

た。順調に進めば、もう一つの全国優勝経験のある強豪、国学院久我山と決勝で当たることになる。1、2回戦はシード権で試合なし、3回戦の都立田園調布戦の初戦から始ま

り、都立武蔵、都立富士と準々決勝まで大勝で勝ち上がり、準決勝では、のちの明治大学の名フッカー中村紀夫(現サントリーサンゴリアス中村駿太選手の父)率いる城北高校と激突。21―6で退け、ついに東京都の頂上決戦に辿り着いた。相手は第二シードの国学院久我山である。

大雨のあとの成蹊大学グラウンドでの試合は、予想通り死闘となった。明治大学八幡山グラウンドでの戦いは、勝つこともあれば、負けることもあるというほぼ互角の戦いになって来ているので、公式戦全勝同士の戦いはどうなるのか、注目の試合となった。結果14―8の1トライ1ゴール差で勝利を収め、東京チャンピオンの初タイトルを取ったのである。

【花園切符を賭けた東京決戦】

本郷高校は、全国屈指の強豪校国学院久我山を都大会の決勝で破ったことにより、高校ラグビー界でいきなり注目されることになった。春の都大会のあと、我々は関東大会のAブロックへの出場を果たし、これまた全国大会上位常連の熊谷工業と対戦。15―0の完封で、熊谷工業をも下し、本郷の評価は鱈上りに上昇した。それ以降本郷は全国常連の高校に対しても、夏場の練習試合で連戦連勝の破竹の進撃を見せ続けた。そして秋の

全国大会東京都第一地区予選でも勝ち進み、ついに10月21日に外苑前の聖地秩父宮ラグビー場で決戦の日を迎えたのである。

夢にまで見た舞台。秩父宮の東京決戦は、まず、第二試合で国学院久我山と城北高校が合いまみれていた。サブグラウンドに入っていくと、久しぶりに顔を合わせる、褐色に日焼けした目黒高校の面々が既に入場していた。梅木監督の実家のある九州大分での合宿で走りまくってきた様子が手に取るように分かる威圧感であった。エンジ色のジャージと肌の色が一体化したあの感じは、見た者全てに強い印象を与える。

この日は、第一地区・第二地区共に各高校全校応援を実施したため、秩父宮はほぼ満席の凄い熱気であった。本郷高校の応援席には、この時にOB会が新調してくれた、今では伝説となっている「燃えろ！本郷ファイティーン」のブルーの横断幕がバックスタンドに掲げられている。おのずと気合も入る。負ける気はしなかった。本郷の生徒達も全員来てくれ、本郷の応援席のバックスタンドは黒い学生服で埋め尽くされた。

第一試合の結果は、常勝国学院久我山が、城北高校を抑えて、東京第二地区代表の座を射止めた。さあ次は我々の出番である。午

後1時、決戦の火蓋はレフェリーの甲高いホイッスルの音で切つて落とされた。

開始早々、敵陣ゴール前で迎えたチャンスに本郷フォワード陣がボールを素早く確保、左ラインにスクラムハーフの池澤から素早く展開され、スタンドオフ小林にボールが供給され、センター13番の千葉の所でケインラインを突破。完全に余った状態で、左には私と、ウイングの清水がバックアップしていた(写真)。



ところが、千葉からウイング清水への飛ばしパスが珍しく前方にそれ、清水の手に渡らずグラウンドを転々としてしまった。そのボールをさっと拾い上げインゴールに飛び込んだのは、スタンドオフの小林であった。本当に頼りにな

る司令塔である。ゴールも難なく決めて6-0と先制することに成功した。固さでのミスは出たが、このトライで、我々の自信が確信に変わったことは間違いなかった。その後も攻撃の手を緩めず本郷は攻め続け、前後半合わせて5トライ4ゴール1ペナルティゴールの得点を上げ、31-0の完封劇で、14年連続花園出場の強豪目黒高校を下したのであった。



万歳する清水

大浦先生は後の回顧録でこう綴っている。「目黒を破った瞬間、これは夢じゃないだろうなと何度も頬をつねってみた」。ノーサイドの瞬間。みんな駆け寄って抱き合っただけで嬉しかった。

【全国の舞台で快進撃】

この年の本郷高校の活躍ぶりは、この目黒

高校撃破のニュースにより、ラグビー界のビッグニュースとして全国に轟き、その後の花園組み合わせ発表では、第2シードの大王大高にならぶ評価を受け、初出場ながら優勝候補である第3シードに選出された。

全国大会では、1回戦宮之城高校に31-0と危なげなく勝利し、高校ラガーの目標でもある念願の正月を花園で迎えることが出来た。

昭和57年1月元旦の2回戦では、地元大阪代表の興国と対戦し、満員の花園ラグビー場でアウェイの戦いの洗礼を受ける。非常に厳しい戦いの末、後半残り10分の所まで0-0のノースコア、終盤のスタンドオフ小林のドロップゴール1本で得た3点を、全員の激しいタックルで守りきり、3-0で勝利し、ついにベスト8の準々決勝への進出が決まった。

【優勝最多回数の北の古豪と初対戦】

正月3日。本郷高校の準々決勝の相手は、21回連続花園出場。全国優勝最多13回の秋田工業高校。北の古豪である。本郷高校のメンバーは、予選からの不動のメンバーとなった。FW陣 1番プロップ小田、2番フッカー佐野、3番プロップ反町(2年)、4番左ロック白石、5番右ロック飯島、6番キャプテン左フランカー原川、7番右フランカー中野、そして8

番ナンバーエイト生沼。BK S ハーフバック陣 9 番スクラムハーフ池澤 10 番スタンドオフ司令塔小林、スリークォーターバックス陣 11 番左ウイング清水、12 番左センター本木、13 番右センター千葉、14 番右ウイング阿久津（2 年）15 番フルバック角。興国高校との激戦から、二日おいてリフレッシュした我々は、万全の心技体で、この決戦に臨んだ。



この試合、先制の口火を切ったのは、チャンピオンチームに挑戦する本郷だった。前半 11 分、密集からの S 日池澤のサイド攻撃により（写真）秋田工業ゴールライン寸前まで迫った本郷は、相手の苦し紛れのタッチキックをキャプテンの原川がチャージし、そのままインゴールで押さえてトライ。4-0 とリードした。

秋田工業も反撃を試みて同じようにゴール前に迫った。ここで秋田 S 日村井（明治大学 O B）がスクラムサイドを突いて抜け、そのままゴールに飛び込みトライ。ゴールも決まり 4-6 と逆転を許す。そのまま前半終了となつて追う立場に変わった本郷であったが、ハーフタイムに大浦先生の喝が入った。「これが伝統校の力だよ。後半先に取り返さないと、厳しくなるぞ。思い切つて行こう！」。我々は、後半は思い切つてバックスの展開ラグビーで勝負することにした。



満員の花園メインスタンド。11 番ウイングの清水にサインを伝える私

【激闘の後半戦】

後半風下に入った本郷は、不利な状況になる。しかし平均得点力 40 点以上の爆発力を誇るバックスで勝負することに迷いは無かつた。フルバック角のライン参加による鮮やかなトライで、10-6 と再逆転に成功した。秋田工業も粘りを見せ、その後 1 トライを返さ

れ 10-10 の同点となる。同点にされた我々本郷は、攻め続けるしかなかった。

後半の中盤過ぎに、秋田工業陣内の深い位置で、マイボールラインアウトのチャンスを得る。この時、小林は風下であったが、距離もそれほど無かつたこともあつて、ドロップゴールで 3 点の勝ち越しを狙った。小林のドロップキックは、生駒山おろしの風を真正面から受け、風に流されてゴール手前に落下し、インフィールド 22 m 内で転々と、楯円球独特の転がりをみせた。処理に戸惑う相手フルバックがボールを掴もうとした瞬間、本郷の 2 年生ウイング阿久津（日本体育大学・トヨタ自動車）のタックルがゴールライン寸前で炸裂。相手フルバックがボールをこぼした所に、右センターの千葉がそのこぼれ球をすくい上げ、そのまま 1 m 先のゴールラインにダイビングトライを決めた。小林のドロップゴールが、生駒山の強風によつて絶妙な攻撃的バントになったのだ。

14-10 と再び本郷がリードした。本郷の立て続けのトライに、古豪秋田工業も浮き足だつ。残り時間がだんだんと無くなつてきた。本郷勝利の瞬間まであと 5 分という所まで時計の針は進んでいた。

【伝統の力】

時間が無いところでの 4 点差。これはペナル

テイゴールの3点では追い越せない点差。秋田工業が勝利するには、トライとゴールを決めるしかなかった。本郷は追いつがる秋田工業に必死のタックルで防御していたが、時計の針がさらに進んだ後半29分、その必死のプレーの中で、本郷が反則を犯してしまった。位置は自陣22mラインの内側のゴール前である。

秋田工業は、伝統のプレーをここで出してきた。ドライビングモールである。秋田スクラムハーフ村井が小さくボール蹴つてリスタートし、ナンバーエイトの泉新日鉄釜石V7メンパーにボールを渡し、その周りを味方のFWでがっちり固めたモールを形成し、本郷FWを二気に押し込んだ。強烈な押しに、ジリジリと本郷FWが後退する。残りワンプレーという状況で、双方負けられない攻防であった。そのモールがゴールライン上に達するか達しないかという瞬間に、モールが崩れた。ボールの行方を覗き込むレフリー。

一瞬の間を置き、レフリーの手が高々と上げられ、トライを知らせるホイッスルが鳴り響いた。茫然とする本郷ファイフティーン。14-14と同スコアに追いつかれてしまったのだ。左隅からのゴールが決まれば、逆転を許すことになるが、秋田工業が狙ったゴールは、生駒山からの風に流され、ポール左に僅かに外れ、その

ままノーサイドとなった。

【無情の結末】

ラグビーに延長戦やPK合戦は存在しない。準決勝への出場権は、キャプテンによる抽選で決めるのである。秋田工業キャプテン渡辺と本郷高校キャプテン原川が、まずジャンケンで先に引くか後に引くかを決める。くじには、準決勝出場権ありの札が一枚だけ入っているとという仕組みである。

ノーサイドの後、選手一同はお互いに礼をした後、どちらが進むか決まっていけない状態で、キャプテン以外はロッカールームに全員引き揚げる。その後で会場の二室で抽選が行われるのだ。壁に頭を打ちながら泣き叫ぶメンパー、床に座り込みうなだれるメンパー。勝ちを9分9厘手中にしていた最後の最後での反則から、自力勝利を逃してしまった悔しさが、我々のロッカーからは滲み出ていた。

待てども、待てども抽選の結果は我々には伝わって来なかった。大浦先生は知っていたが、泣きひしがれる我々にその結果を伝

えることは出来なかったのだと思う。

14-14。抽選で準決勝出場権無し。公式試合戦績16戦15勝1分、総得点634点、総失点50点が、我々S56年組の最終戦績である。

本郷学園ラグビー部の長い歴史の中で、唯一公式戦無敗で花園出場の扉をこじ開けたこのチームの一員として、大浦先生と一緒で戦えたことを私は誇りに思うと共に、私の人生における大切な出会いに感謝している。

(※この原稿は一部を抜粋したものです。全文は本郷学園同窓会ホームページをご覧ください。)



右側奥から、呆然とする小田、頭を抱える千葉、全身が脱力状態の白石、立っているのが私

染井能舞台物語。パート2..舞台披き(大正8年11919年)

主な出演者の人物紹介

高松松平家ゆかりの人々

- 松平頼壽(まだいらよりなが)伯爵・本郷学園創立者・貴族院議長
- 松平昭子(まだいらあき)松平頼壽夫人、水戸藩主・徳川昭武の長女
- 松平俊子(まだいらとし)日本女子高等学院(昭和女子大学)校長
- 中野岩太(なかのいわた)旧高松藩士・頼壽の目付役、中野武宮の令息
- 加賀前田家ゆかりの人々
- 前田利邨(またとしか)子爵・貴族院議員
- 八世・藤田多賀蔵(ふじたたかざう)旧加賀藩お抱えの「噌流笛方

財界実力者

- 安田善衛(やすだぜんえい)安田財閥の創始者安田善次郎の甥
- 渡辺勝三郎(わたなせかつさぶろう)東京渡辺銀行・あち銀行頭取

学者

- 徳永重康(とくながしげやす)動物・地質学者、早稲田大学理事
- 滝村立太郎(たきむらたちろう)仏語文学者、中原中也に教鞭

文化人

- 河東碧梧桐(かわひがしき)俳人正岡子規の弟子
- 久米桂一郎(くめけいいちろう)洋画家・美術教育者・美術行政家
- 金子有郷(かねこうりん)馬術・弓術・剣術・陣太鼓の保存継承者
- 日露戦争・旅順総攻撃の決死隊「白襷隊」を率いた軍人
- 大久保直道(おおくほなおみち)陸軍歩兵大佐
- 人間国宝の能楽師(重要無形文化財保持者)各個認定

- 幸祥光(こうしきみ)幸流小鼓方 昭和三十年
- 川崎九淵(かわさききゅうえん)葛野流大鼓方 昭和三十年
- 松本謙三(まつもとけんぞう)下掛宝生流ワキ方 昭和四十年
- 亀井俊雄(かめいとしお)葛野流大鼓方 昭和四十三年
- 幸宣佳(こうのぶよ)幸流小鼓方 昭和四十九年

演目と上演順序

祝言能「翁」(おきな)
「高砂」(たかさご)
初番目物・神

狂言
脇能物(わきのうもの)
「未廣(未広・未広かり)」
(すえひろがり)
「頼政」(よりまさ)
二番目物・男

一調
狂言
能
「山姥」(やまんば)
「狐塚」(きつねづか)
「野宮」(ののみや)
三番目物・女

一調
狂言
能
「八島(屋島)」(やししま)
「釣針」(つりばり)
「綾鼓」(あやのつづみ)
四番目物・狂
雑物(ぞうもの)

祝言能「岩船」(いわふね)
※半能
(後半の部分だけを演ずる形式)
※祝言性を持たない鬼畜物は除外
五番目物・鬼
尾能物(きりのうもの)



染井能舞台



染井能楽堂の外観

能の正式な上演順序は翁付五番立(おきなつきごばんだて)で、翁に次いで能五番、間に狂言を演じる。

染井能舞台の舞台披きでは、五番目物の鬼畜物を省略した四番立を軸に、狂言と二調(謡と小鼓)を織り交ぜている。

染井能楽堂

所在地..豊島区駒込四ノ八
交通..省線駒込驛、都電駒込驛前
収容人員..約四百名

出典..東京都総務局観光課

昭和二十四年六月日現在
文化施設案内(一)三十九頁

舞台披きの演目と出演者の役柄・流儀・職分／能楽師と各界著名の素人能楽家が多数共演「大分ひね」た番組

松平伯郎催能舞臺開(舞台披き)大正八年(一九一九年)十月十九日(日)午前八時開演
染井松平伯郎邸内(『染井能楽堂』)

祝言「翁」

千歳 安田善衛
三番叟 大月登也(渡辺勝三郎)
面箱 高井則士(高井則安)
脇鼓 三須清志
脇鼓 小早川靖(幸宣佳)

能「高砂」

シテ 中野岩太(中野茗水)
ツレ 畑富次
ワキ 松本謙三
笛 前田多賀蔵(八世藤田多賀蔵)
小鼓 幸悟朗(幸祥光)
大鼓 亀井俊雄
太鼓 金春林太郎(三世春碧衛門泰)

能「頼政」

シテ 徳永重康(徳永三博)
ワキ 河東乘五郎(河霧稿伊号徳彦)
笛 藤田了介(藤田了助)
小鼓 中野營三(中野營三)
大鼓 松平頼壽(松平宝松)

一調「山姥」

謡 松平頼和
小鼓 松平俊子

狂言「狐塚」

アイ 杉坂喜哉

能「野宮」

シテ 安田善衛

宝生流 素人能楽家(実業家)
大蔵流 素人能楽家(実業家)
幸流 能楽師(狂言方)
幸流 能楽師(小鼓方)
幸流 能楽師(小鼓方)

宝生流 素人能楽家(実業家令息)
下宝生流 能楽師(シテ方)
一噌流 能楽師(囃子方笛方)
幸流 能楽師(囃子方小鼓方)
葛野流 能楽師(囃子方大鼓方)
金春流 能楽師(囃子方太鼓方)

宝生流 素人能楽家(学者)
下掛宝生流 素人能楽家(伊人)
一噌流 能楽師か?
幸流 素人能楽家(洋画家)
葛野流 素人能楽家(政治家)

宝生流 素人能楽家(政治家)
幸流 素人能楽家(教育者)
和泉流 能楽師(狂言方)
宝生流 素人能楽家(実業家)

ワキ 尾土始太郎
小鼓 一噌六郎(十二世)
大鼓 瀧村立太郎
田中小太郎

一調「八島」

謡 松平頼壽
小鼓 松平昭子

狂言「釣針」

アイ 奥村金の助

能「綾鼓」

シテ 前田利邨(前田青雪)
ツレ 前田喜太郎(田中喜太次郎)
ワキ 前田政信(藤田政信)
笛 前田多賀蔵
小鼓 松平頼和
大鼓 川崎利吉(川崎九淵)
太鼓 金春林太郎

大久保直道
伊藤中
金子有鄰
城大倫
久米桂一郎
鹽田武夫(塩田武夫)
岩脇真助(岩脇真助)

祝言「岩船」

シテ 大久保直道
ワキ 伊藤中
小鼓 金子有鄰
大鼓 城大倫
太鼓 久米桂一郎
岩脇真助(岩脇真助)

付記：本資料作成にあたり左記の出典記事と比較し、さらに交流関係を通り人物を特定した。

大正八年十月日発行 ①雑誌「能楽画報」第十三年第十號東京能楽界32〜33頁
大正九年十月日発行 ②雑誌「謡の友」第四年第十号十月號東京の會22〜23頁
大正九年十月日発行 ③雑誌「謡曲界」第十卷第六號拾式月號演奏會東京97頁
大正九年十月日発行 ④雑誌「能楽」第十八卷新年號會報東京能楽界45頁
昭和二十九年九月日発行 ⑤雑誌「宝生」第四卷第九号東京能舞台1上33頁
※記事の中で筆者が「大分ひね」た番組」と評している。
気象庁・過去の気象データ(東京)・・・最低気温11.7度、最高気温21.0度、降水0ミリ、好天

写真：横浜能楽堂本舞台(旧染井能舞台)



八嶋 政臣 さん
1952年=昭和27年卒業
高校4回生

NPO法人横須賀精神保健ふれあいグループから 事務局長

1932年(昭和7年)秋田県生まれ。神奈川県法経学部法学科卒業。株式会社創和設計 経理部入社。

社会福祉法人国際親善総合病院 経理課長を経て、2002年(平成14年)から横須賀市役所障害福祉課で障害者への相談事を担当する。

2005年(平成17年)「特定非営利活動法人横須賀精神保健ふれあいグループ」を設立。障害者への福祉の増進を図る活動と雇用機会の拡充を支援する活動を行っている。

現在は、横須賀市安浦町を拠点に就労継続支援B型事業所、ケアホームなど4事業所の運営に携わり、障害者が地域の中で自立した日中活動を営み、不安なく生活できるように支援活動を行っている。

本人からのコメント
私の健康の源は、規則正しい生活と生涯働き続けることです。私は、これまで年々まじった事なく現在まで、60年間働いてきました。元気なうち、現在の仕事を生涯続けていきたいと思っています。

本郷学園時代から続けております陸上競技を長年継続してきたおかげで、病気もせず健康維持と繋がる基盤になったと

思っております。本郷学園のグラウンドを毎日遅くまで走り続け、神奈川県大学時代には箱根駅伝に一走者として参加することが出来、良き思い出となっております。これも本郷学園に入学できたおかげである。



仲摩 邦夫 さん
1943年=昭和18年卒業
中学18回生

郷土史家。1928年(昭和3年)東京生まれ。

1944年(昭和19年)当時認められた中学4年で本郷中学を卒業。同年電波兵器技術者養成のため国の資金援助で設立された「国防理工学園電波科学専門学校」に入学。

しかし翌年1945年(昭和20年)日本は敗れ「東海科学専門学校(現東海大学の前身)と改称。1947年(昭和22年)に卒業。就職難でしたが、日本放送電(株)に採用され、広島支店に配属された。1951年(昭和26年)日本放送電(株)は集中排除法により9電力会社に解体されました、東京本社勤務を願ってましたが、それも出来なくなり、やむなく分割後発足した中国電力(株)を退職して帰郷、就職先を探しました。

昭和27年、新聞発行を始めた産経新聞社が電気通信事業者を探していることを知り、応募採用され東京本社編集局機報部に勤務。マスコミ集中排除政策のため従来NHKが

独立していたラジオ・テレビ放送事業に民間会社が参入、さらに新聞社とラジオ・テレビ局のグループ化が進み、1967年(昭和42年)現在のフジサンケイグループが誕生しました。地方系列局設立を担当する電波企画室に異動して、ニッポン放送・フジテレビに出向、以後、20数年間札幌から鹿児島まで全国を飛び回り、新局開設免許申請の業務を担当しました。開局免許獲得をめぐり、各新聞社間で熾烈な争いがありましたが、1991年(平成3年)の時点でフジテレビは全国に26社の系列局を開設できました。系列放送局開設免許取得工作が一段落した1993年(平成5年)65才で退職。

学園時代の思い出

私の学園時代は、日中戦争から太平洋戦争の最中でした。学園時代の思い出としては退校将校による、厳しい軍事教練がありました。全長1m以上、重さ4kgもある軍払い下げの三八式歩兵銃を担いでの教練、特に東富士演習場での合同教練は忘れられません。また学業途中で予科練、海軍兵学校、陸軍士官学校へと進んだ級友達との送別会などは今でも鮮明に憶えています。

私は1993年(平成5年)退職後、それまで勉強して来た日本史の知識と、蓄えてきた資料を活かし、地元藤沢市で歴史講座を開きました。自治体の協力、援助を得て、現在年間受講者数2500名を越え、今後も続けます。私は色々な会合で「仲摩さん、どうしてそんなに元気なの」とよく聞かれます。「年をとっても家に閉じこもってはいけません。進んで外に出て友達をつくりましょう」と答えます。私が元気な源は友達を通じて社会との繋がりを絶やさないことなのです。



志田 芳久 さん

1945年= 昭和20年卒業
中学18回生

作曲家。1926年（昭和元年）東京都文京区で七人兄弟の末子で生まれる。1940年（昭和15年）5才年上の兄の本郷中学卒業を迫るように入学。

2年生の時、留学から帰国したばかりの福井直弘先生の音楽を講堂で聞かされ、初めて音楽に感動した。この感動こそが私を音楽に進ませる動機となりました。その時、戦争の激化もあり、陸軍特別幹部候補生に志願し、1年余り入隊しました。復員し家に着くとピアノの音が聞こえた。母が疎開に困ったピアノを引取ってくれていたのだけれど、その母の愛情が音楽の道を決定的につけてくれ、東京第三師範学校で音楽を教えるようになりました。

教職についてからも、武蔵野音楽大学でピアノを勉強しました。そして1955年（昭和30年）念願の東京藝術大学で1年勉強することを許され、和声学から作曲法を学ぶことになった。青島清彦先生の門下生となり、作曲を勉強し続けている。

本人が90コメント

本郷中学校で福井直彦先生に聴かされた音楽に触発され、母の勇氣と愛情によって入手したピアノにより、私は音楽の道に進んできました。それが藝大で和声学を勉強し、進路は一変しました。それまで表現出

来なかつた演奏の喜びを味わう事ができたのです。

私は青樹舎と名のなる作曲グループに属し、毎年発表会で曲を発表する機会を得ました。自分の音楽に対する思いを楽曲を通して聴衆に伝えることが出来たからです。

しかし、1994年（平成6年）5月10日浜離宮朝日ホールでの発表会が最後となりました。この曲で私は日本民謡の叙情性をピアノとチェロで現しました、聴いてくれた人には好評でしたが、青島先生の念願した西洋音楽と日本音楽の融合を意図した「複合陽施法」の技法が充分生かされていなかた事が心残りでした。青島先生が亡くなった事もあり、青樹舎は解散しました。



市川 保 さん

1947年= 卒業
昭和22年 中学20回生

竹工芸家。1929年（昭和4年）大阪市東淀川区生まれ。

1932年（昭和7年）1月実父の急死により、同年、東京・日暮里の従兄弟で竹工芸家小林竹元齊へ養子として入籍。1942年（昭和17年）本郷中学に入學するも、戦争の激しさが増し、1945年（昭和20年）3月末新潟市上越市（当時 直江津市）へ疎開、新潟県立高田中学校に転入。

1947年（昭和22年）卒業と同時に竹工芸

の伝承の為、進学を断念する。1945年（昭和20年）5月養母死亡、諸事情により、生家市川家に復籍。1959年（昭和34年）結婚を機に足利市へ移り、竹工芸、茶華道具店を開業する。1964年（昭和39年）から栃木県芸術祭工芸展に出展、入賞し、1970年（昭和45年）に、芸術祭賞（最高賞）受賞。

1961年（昭和36年）から、日本伝統工芸展に出品。1990年（平成2年）日本工芸会正会員となる。1995年（平成7年）に最高賞である日本工芸会総裁賞受賞、同年足利市より文化功労章受賞、1999年（平成11年）栃木県文化選奨受賞。

書道では1969年（昭和44年）から日本教育書道連盟に加盟、現在栃木県支局長理事、日本書道美術館副館長。

本人が90コメント

荒川区第二日暮里小学校六年の時、担任の先生の強い勧めで本郷中学校へ入学。

一年の時は、勉強も普通にする事が出来たのですが、二年生の途中から徐々、に戦争が烈しくなり学徒動員で、軍事工場や疎開工事、家屋の取り壊し等に行き、勉強は全く出来ない状態となり、本郷中学校の校庭にも爆弾が10数発投下され、校舎も破壊。

1970年（昭和20年）3月10日の大空襲で、死を覚悟する様な状態で、3月31日に重病の母と共に、超満員の列車で、新潟県直江津へ行き、母は即入院するも、5月に死亡。その後親戚を転々として終戦となる。

その様な事情で学業は勿論、生活も厳しく、総てが失われてしまった。しかし、書道と竹工芸を続けた結果、今日、幸せな生活を得、生涯現役でやれる事に感謝しています。



鈴木 貞夫 さん
1935年=昭和10年卒業
中学8回生

100歳弥栄。
一般社団法人「如水会」のクラス監事を永年務める。1917年(大正6年)10月神奈川県横須賀市生まれ。小学校5年生まで在住、祖父母に育てられ、6年生になる時、東京での両親と暮らすことになった。1930年(昭和5年)本郷中学校に入学。横須賀生まれのためか、海軍に憧れていたが、近眼という事で入学できず、海軍経理学校も駄目で、東京商科大学予科(現一橋大学)に合格・入学する。

卒業後、芝浦工作機械(株)に入社営業部にて頑張っていたが、自宅が爆撃で焼失し、家族を疎開させた。大和自動車交通(株)に縁故で入社する。役員となり定年まで在職し、70歳となり退職。

学園時代の思い出

本郷中学は当時貴族院の副議長だった松平頼壽氏が(議長は近衛文磨氏)校長で、教頭には体操で有名だった永井道明氏がおり、軍事教練や体操などで有名な学校であった。

先生には実力のある年配の方がおり、なかなか厳しい日常であった。中学5年の野外訓練では、宿痾の喘息を発病、苦しい思い出ではあった。

一浪して東京商科予科に入学、自由主義、個人主義と悪口を言われていたが、楽しい良い大学だったと思う。良い先生が沢山おられた、なんといつても周囲の自然景観にも恵まれていた。

神保町の書店街にもよく通った、中学をサボって上野図書館にもよく行った。



田中 実 さん
1973年=昭和48年卒業
高校25回生

彫刻家。1954年(昭和29年)東京都生まれ。1973年(昭和48年)本郷高校卒業。
和光大学人文学部芸術学科卒業後、本郷学園デザイン科で20年間、講師として在職。コマ・シヤル・テレビ・映画・デザイン・ラダー等造形物制作。現在・株式会社花笑みグループ営業部・部長、株式会社シルバーエージェン卜入居相談室・室長。

旧制本郷中学2回生卒業

旧制本郷中学2回生卒業・新制作協会創設会員・彫刻家の故吉田好夫先生に師事。1977年(昭和52年)新制作協会展初入選。1993年(平成5年)・1995年(平成7年)新作家賞受賞。新制作協会会員。1994年(平成6年)個展・大八画廊(銀座)開催。1995年(平成7年)・1997年(平成9年)新制作協会新鋭展「ジャラリ〜せいぼ」(銀座)で開催。2002年(平成14年)佐藤裕司氏と和光大学展(スカイード)開催。他・個展・多数グループ展に出展。

作品・所蔵先

○本郷学園「松平頼明先生」像、制作設置
○「新宿花園饅頭」本店設置
○「葵・カントリイ」クラブ設置
○北九州小倉北区厚生年金会館結婚式場設置
○本郷学園「ラグビー部記念ラグビーボール制作(フロンド)」
○有料老人ホーム「ケアホーム花笑・青葉台」
○ケアホーム花笑・藤の華」設置など多数設置

在校中の思い出

私はデザイン科の卒業生です。今日、私があ

るのも、当時担任の数学科田村先生始め、デザイン科・機械科・普通科の個性豊かな諸先生方が、当時は服装・髪型(長ラン・ボンタン・リーゼント)が流行っていた時代でした。校則はかなり厳しかった割には、暖かく見守って頂いたおかげで楽しい学園生活を過ごすことができました。

部活動も「相撲部」に在籍していました。東京都大会団体戦2位、個人戦でも東京都大会ベスト8、関東大会ベスト16の成績も残せました。全校集会で壮行会を開いて、当時、大将田中と呼ばれて壇上にかかる時、76キロで小柄でしたので、「齊に、え〜」と言う声が上がったのを今でも覚えています。顧問も担任の田村先生で、泊りがけで色々な大会に行けたことも楽しい思い出です。

体育の授業では、柔道が必須科目で、東京オリンピック大会の候補選手だった石井先生が教員として学園に入ってから、柔道の時間にその強さを、その時はじめて体感できました。おかげで柔道部ではありませんでしたが、2段を取る事が出来ました。行事も盛りだくさんで、マラソン大会・運動会での応援の建て看板制作、デザイン科でしたので、建て看板は他の生徒の目を見るものがありました。

卒業後も、母校デザイン科で20年間教壇に立つことが出来、才能豊かで現在活躍されている多くの卒業生と一緒に学び、創作活動に接する事が出来た事も私の財産です。現在も退職された先生方やデザイン科の卒業生と旅行やクラス会、飲み会に誘って頂き楽しい日々にあります。

それが又、私の制作活動にいつも生きていますが、そんな思い出を持つ「本郷学園」がこれらも個性豊かな人材を育て私学の存在感を高めて欲しいと思います。

同期の輪

2015年 平成27年卒業（高校67回生）

成人の集い

中村 有希

昨年の5月20日、我々高校67回生の成人の集いが行われました。早くも卒業から2年が経過し、久々に顔を合わせた我々の会話の中では、本郷での生活を懐かしむ思い出話はもとより、それぞれの進路における成功話や苦労話に花が咲きました。2年も会わなければ当然、意外な趣味に走っている仲間もあるものです。興味深いエピソードを幾つも聞くことが出来ました。

この度私は実行委員長を務めさ

せて頂きましたが、実は当日の1週間前までハワイに留学（旅行ではありません）しており、ほとんど準備に携わることができませんでした。そのため、同窓会の諸先輩方や他の実行委員の同期にはご迷惑をおかけしてしまいました。結果として歴代1位の参加率を誇り大成功を収めることができたと自負しています。ここから伺えることはやはり、我々の代自慢の「団結力」「統一感」と本郷に対する「愛」以外の何物でもないでしょう。互いに支え合いながら大きな目標を幾つも達成してきた間柄だからこそこの独特の空気が我々の代にはあります。男子校の特徴も相まって、実際高校の同期と話すときは気構えなく楽に接することが出来ます。

10年後、我々はどんな未来を歩んでいるのでしょうか。分かる筈もないことですが、いつまでもこの縁が続き、人生の経過点でお互いの



頑張りを称え合えるような間柄が続くことを願うばかりです。おそらく願わなくとも、我々の本郷愛の大きさからすれば自然とまた集まる機会がありそうです。一方で、その際には、各々の道で更なる飛躍をした姿を見せあい、互いに鼓舞し合う存在であれたら素敵です。

変わらないでいられたなら
変わっていったなら

最後になりましたが、この場をお借りして、同窓会の諸先輩方、理事長先生、校長先生、恩師をはじめ学校関係の方々に感謝申し上げます。

染井ふくの会の集い

1954年 昭和29年卒業（高校6年生）

津久田 愛之助

晩春の好天の下、銀座木曾路にて、平成29年5月23日（火）正午、同期10名賑賑しく集い開催。渡辺

昭義氏が久方ぶりの同期再会を慶び、乾杯の音頭を執り行い、すぐに物故なされた旧友を悼み全員で黙祷を捧げた。そののち、さっそく旧友と時を忘れ、美酒を互いに交わし歓談。最後に、散会を惜しみつつ互いの健康と本郷学園の益々の発展を祈願し、校歌斉唱のうえ大西



美代智氏の威勢の良い音頭で三本締めを取り交わし、次回再会を約し散会となりました。

同期会

1960年 昭和35年卒業（高校12年生）

伊奈 信行

ある日、ケイタイが呼び出している。田嶋君からだ。「今度、出られる。出られない」。私は耳が遠くよく聞き取れないので、家の者と代わる。いろいろ説明してくれた。有難う。二週間後にも電話があった。何故かこの日はよく聞こえる。「どう。来いよ」。私は、難病も回復しているので「行くよ」と返事をした。

当日は総武線の小岩駅「柝錦」の銅像の前に集合して、近くのスナック「ハナミズキ」に向かう。そこが貸し切りの会場である。受け付けを済ませてボックスに座る。

何人かの消息の報告があり、乾



杯の音頭で宴会が始まる。皆で懐かしい雑談をするうちに、カラオケが始まる。女性が入ると二層賑やかだ。今回(昨年十月十四日)は、参加者18名でプラス女性(奥様)が参加してくれた。私は大分前に参加して以来暫くぶりである。宴半ばを過ぎて学園校歌を斉唱した。記

念写真を撮り散会した。

午後一時半より五時ごろまで、何年振りかで会って顔を見ても、誰が誰だか分からない。なかなか思い出せない。困ったものだ。ぶらぶらと皆で駅まで歩き、ホームで「元気でな」と再会の握手をする。なんとも言えない心の籠った感じで忘れられない。

帰りの方角が同じ小早川君と帰路につく。家に着きシャワーを浴び、用意してあった目玉焼き、サラダ、トースト、缶ビールで晩酌。今日の仲間を想い出す。又、会いたい。元気で健康でいたい。有難うございました。

1966年 昭41年卒業(高校18回生)

古希の祝

小倉 義雄

今回は、平成29年10月17日(火)午後5時30分～9時30分まで、池袋の居酒屋にて25名の参加者で古

稀(70歳)の祝いを、初めて参加してくれた3名を含め、大変にぎやかに楽しく開催しました。初めに、この年逝去されました手塚君・小川君のご冥福をお祈りいたしまして、皆で黙祷を致しました。

その後、乾杯をしましてから会食に入りました。途中一人一人古稀の服装で(紫のちゃんちゃんこ・頭巾など)記念写真を撮りました。皆照れ笑いをしながら写真に納まっていました。その後、近況報告・お酒の入った大きな杯で記念写真を撮ったり、全員で本郷の校歌を大声で歌ったり、最後に全員で記念写真を撮ったりと、時間が経つのを忘れるほど大変楽しい4時間を過ごすことが出来ました。これは私達の大変良い一生の思い出になることと思います。これも本郷高校を卒業して52年過ぎた同期の仲間がいるからこそと思います。

幹事の皆様ご苦勞様でした。最

後にお互いの健康と母校ならびに本郷同窓会の益々の発展をお祈り致します。



M2同級会

1983年 昭和58年卒業（高校35回生）

河合 一典

50歳を過ぎて皆が再会した本郷高等学校機械科2組の同級会が初めて開かれたのは平成25年のことでした。その4回目の同級会を平成29年8月25日に上野公園内の「上野韻松亭」で恩師の小倉義雄先生を交え行うことが出来ました。M2総勢51名の内37名に連絡がつき、今回17名の出席者でした。

今回のメンバーの中には、卒業後初めての参加の方も数名おり、体形はだいぶ変わった（もちろん髪も）にもかかわらず、すぐに35年前の容姿も思い出し、懐かしい話に花が咲き、大宴会となりました。う間に時間は過ぎていきました。この数年の間に会話の中心が趣味や子供の話から、自分達の体調管理の話へ移行してきたのに少し年を感じました。

小倉先生と幹事の私の意向もあり、今後、1年に最低1回は皆で会う機会を作り、近況報告を

行う約束をし、上野公園を後にしました。

今はない機械科ですが、本郷高等学校機械科の卒業生として、今後日々精進して胸を張って生きていきたいと思えます。これからの母校の発展と皆様のご健勝を祈念致します。



OB会通信

スキー部創立45周年記念パーティー

1999年＝平成11年卒業（高校51回生）

藪内 宏和

2017年10月19日(日)。毎回利用している巣鴨にある三菱養和会のレストランバルテールにて、「本郷スキー部創立45周年記念パーティー」が開催されました。OB、現役を含めた総勢41名が参加し、顧問の佐々木先生やOB会会長の立入さん、また写真を見るとわかりますが、女性が2名参加されました。こちらの女性第3期神谷さんの奥様と妹さんで、現役の頃の合宿にはお母様や妹さんも参加されたそうです。メン

バーの家族が部のイベントに参加されることなど全く想像できなかったので、昔の部活動の交流の広さと濃さに驚かされました。

私が現役の頃より部員数がとても増えていて何よりもうれしく思いました。パーティーには、OBの中でも63歳から19歳と年齢層が幅広く集い、スキー部の歴史を振り返り、自分たちの当時の思い出話を咲かせ、世代の壁を超える交流の場として大いに盛り上がりました。近くの居酒屋での二次会参加が100%（女性2人を除く）だったのは、スキー部らしい出来事でした。記念パーティーより気楽な会になり、より一層OB間での交流ができたかなと思います。

私は27期でOBの中では中間くらいに位置しますが、次の50周年式典へ、先輩方と後輩たちとの架け橋となれるよう、努めてまいります。



トピック

第五回本郷医師の会

本郷医師の会幹事長
杉下 和行

1996年 平成8年卒業
(高校48回生)

第五回本郷医師の会を平成29年11月25日に新宿区内で開催致しました。例年は居酒屋での開催でしたが、できるだけ沢山の医師の会の会員同士が交流を深められるようにと今回は立食形式と致しました。会長である岡本先生から乾杯のご発声を兼ねたご挨拶をいただき閉会となりました。

岡本先生は、「最近、本郷高校卒業というと、『すごいですね』と言われることが増えました」と後輩の活躍に目を細めていらっしゃいました。初めて参加して下さった先生もいらつしやいましたが、あつという間に溶け込んでいらつしやいました。同窓という強い絆を再確認致しました。

歓談の合間に、参加された全員から近況報告をしていただきました。開業医の先生方のお話の二例として、所属医師会で新しい試みを始めているという興味深いお話もありましたし、勤務医の先生方の中では、「急患が発生した際には、本郷医師の会のドクターからの紹介であれば責任をもつて緊急対応をする」と力強く明言してくださった先生もいらつしやいました。最後に、最年長の先生からご挨拶をいただき閉会となりました。

平成30年11月17日土曜日に第六回本郷医師の会を開催致しますので、この記事を読まれた医師あるいは医学生の方は是非ご参加下さい。

「本郷医師の会」で検索していただくと本郷医師の会のホームページが表示されます。そこに連絡先が記載されておりますのでご連絡いただけましたら幸いです。同日にご都合が悪くても名簿に登録させていたいただき随時お声掛けを致しますので遠慮なくお問い合わせ下さい。



● 会員相互の意見と親睦

● 定期総会開催日 日時：6月16日(土)15時。会場：母校1号館2階会議室

● 総会後の会員懇親会開催日 日時：6月16(土)17時。会費：3,000円。会場：三菱養和会「巢鴨スポーツセンター」内

● 理事会開催日 日時：4月21日(土)15時、10月20日(土)15時。会場：いずれも母校1号館2階会議室

● 理事懇親会開催日 日時：4月21日(土)17時、10月20日(土)17時。会費：3,000円。会場：いずれも三菱養和会「巢鴨スポーツセンター」内

● 「はたちの集い」(旧「成人の集い」)第11回。卒業2年後の同期会。2016年11月平成28年3月卒業生入高校68回生V(対象)開催日 日時：5月19日(土)14時半。会費：1,000円。会場：三菱養和会「巢鴨スポーツセンター」内

● 本郷祭(学園文化祭)同窓会

● 展示室(ブース)開設日 開設日：9月15日(土)、16日(日)

● 本郷祭同窓会懇親会(サロン)開催日 日時：9月16日(日)15時。会費：3,000円。会場：三菱養和会「巢鴨スポーツセンター」内

● 還暦・30歳の集いなど同期会の開催支援

● 会誌の発行
「銀友」47号 発行日：5月1日。発行部数：15,000部。A5版

● 母校の後援
各分野における全国規模の大会等で活躍した生徒を表彰

● 卒業生全員に記念品贈呈

● 同窓会会員名簿の管理とそれにとりまなう卒業生などの新会員・会員の住所変更登録、会費納入者・物故者の記録および「銀友」掲載用原稿作成など必要な各種事務処理 業者に

委託

● ホームページの管理

● 同窓会行事の告知・開催報告ならびに更新、既刊を含む同窓会誌「銀友」の転載、住所変更受け付け、同期会等の開催告知・報告掲載など

その他の事業

● 学園教職員との懇親会開催
● 入学・卒業式、体育祭など学校行事への役員代表の出席、参観

会の運営

● 運営委員会開催日時：4月21日(水)13時、5月19日(土)11時、6月16(土)13時、7月21日(土)15時、9月1日(土)15時、10月20日(土)13時、11月17(土)15時、12月15日(土)15時、1月19日(土)15時、2月16日(土)15時、3月16日(土)15時。会場：いずれも母校4号館会議室

● 「はたちの集い」(第12回)。2017年11月平成29年3月卒

●「はたちの集い」(第14回)
 2019年11平成31年3
 月卒業生(高校71回生V
 対象)実行委員会結成日
 時:3月7日(木)正午。会
 場:母校教室

業生(高校69回生V対象)
 実行委員会開催日:2
 月16日(土)13時。会場:母
 校4号館会議室

— 同窓会からのお願い —

年会費納入にご協力ください

一口:2,000円以上

同窓会の運営はすべて皆様の会費
 で行っております。ぜひともご協力
 ください。

振込取扱票を同封しております。

インターネットバンキングを含む
 銀行振り込みも可能です。その際は
 会員番号(振込取扱票に印字してあ
 るお名前)の下に8桁の数字)か、氏
 名と卒業年(昭和はS、平成はHと
 表記してください)のどちらかを明
 記してください。

銀行口座:三菱UFJ銀行駒込支店

普通口座08211142

本郷学園同窓会

2018年度収支予算案

2018年4月1日~2019年3月31日

(単位:円)

科 目	収 入	科 目	支 出
前年度繰越金	3,788,390	総会(1回)、理事会(2回)開催	450,000
新卒者同窓会入会金	3,000,000	〔資料作成費	〔 150,000
同窓会年会費	2,400,000	〔懇親会費	〔 300,000
成人の集い	400,000	会誌発行費(15,000部)	2,900,000
〔会費	〔 150,000	〔銀友制作費	〔
〔学校側負担金	〔 250,000	〔宛名印刷費	〔
本郷祭同窓会懇親会会費	150,000	〔ラッピング費	〔
懇親会会費	300,000	〔発送費	〔
〔理事会	〔 150,000	〔編集諸経費	〔
〔総会	〔 150,000	行事部門	2,150,000
雑収入	0	〔成人の集い	〔 700,000
		〔本郷祭同窓会出展費	〔 250,000
		〔本郷祭同窓会懇親会費	〔 150,000
		〔同窓会開催支援費(活性化)	〔 150,000
		〔活躍した生徒への激励費	〔 600,000
		〔卒業生記念品費	〔 150,000
		〔学園懇親会費	〔 150,000
		〔会員名簿保守管理費	〔 300,000
		〔ホームページ年間契約料	〔 60,000
		〔運営委員会交通費補助	〔 200,000
		〔事務費	〔 150,000
		〔備品費	〔
		〔消耗品費	〔
		〔資料作成費	〔
		〔通信費	〔
		〔雑費	〔
		支出合計	6,210,000
		次年度繰越金	3,828,390
合 計	10,038,390	合 計	10,038,390

会員相互の意見と親睦

● 定期総会開催Ⅱ日時：6月17日（土）15時。会場：母校1号館2階会議室

● 定期総会後の会員懇親会開催Ⅱ日時：6月17日（土）17時。参加者数：57人。会費3,000円。会場：三菱養和会「巣鴨スポーツセンター」内

● 理事会開催Ⅱ日時：4月15日（土）15時。10月21日（土）15時。会場：母校1号館2階会議室

● 理事会後の理事懇親会開催Ⅱ日時：4月15日（土）17時、参加者数：27人。10月21日（土）17時、参加者数：23人。会費Ⅱ3,000円。会場：三菱養和会「巣鴨スポーツセンター」内

● 成人の集い（第10回Ⅱ卒業2年後の同期会。2015年Ⅱ平成27年3月卒業生ハ高校67回生V対象）開催Ⅱ日時：5月20日（土）14時半。参加者数：184人（卒業生160人、理事・校長・担任教諭など学

園関係者10人、同窓会関係者14人）。会費Ⅱ1,000円。会場：三菱養和会「巣鴨スポーツセンター」内

● 本郷祭（学園文化祭）同窓会展示室（ブース）開設Ⅱ開設日：9月16日（土）、17日（日）。会場：母校2号館5階高1～1教室

● 本郷祭同窓会懇親会（サロン）開催Ⅱ日時：9月17日（日）15時。参加者数：36人。会費Ⅱ3,000円。会場：三菱養和会「巣鴨スポーツセンター」内

会誌の発行

● 「銀友」46号Ⅱ発行日：5月1日。発行部数：15,000部。

A5版

母校の後援

● 各分野における全国規模の大会等で活躍した生徒等（15件）を表彰

● 卒業生全員303人に記念品として印鑑を学園ならびに父母の会と共同で贈呈

会員名簿の整理

● 同窓会会員名簿の管理とそれにもなう卒業生などの新会員・会員の住所変更登録。会費納入者・物故者の記録および「銀友」掲載用の原稿作成など必要な各種事務処理Ⅱ業者に委託

ホームページの管理

● 同窓会行事の告知・開催報告ならびに更新。既刊を含む同窓会誌「銀友」の転載。住所変更受け付け、同期会等の開催告知・報告掲載など

その他の事業

● 学園教職員との懇親会開催Ⅱ同窓会より11人参加。日時：11月29日18時より。会場：三菱養和会「巣鴨スポーツセンター」内。学園側からは理事長、常務理事、校長、高・中教頭、母校OB教諭、事務職員が参加

● 入学・卒業式、体育祭など学校行事への役員代表の出席、参観

会の運営

- 運営委員会開催 11日 時・4月15日(土) 13時・5月20日(土) 11時、6月17日(土) 13時、7月15日(土) 15時、9月2日(土) 15時、10月21日(土) 13時、11月18日(土) 15時、12月16日 15時(土)、1月20日(土) 15時、2月17日 15時、3月17日(土) 15時。会場：いずれも母校4号館会議室
- 「はたちの集い」(旧「成人の集い」)第11回。2016年11平成28年3月卒業生へ高校68回生V(対象)実行委員会開催 11日 時・2月17日 13時。会場：母校4号館会議室
- 「はたちの集い」(第13回)。2018年11平成30年3月卒業生へ高校70回生V(対象)実行委員会結成 11日 時・3月7日(水) 正午。会場：母校教室

2017年度収支決算報告書
2017年4月1日～2018年3月31日

(単位：円)

科 目	収 入	科 目	支 出
前年度繰越金	4,094,025	総会(1回)、理事会(2回)開催	546,662
新卒者同窓会入会金	3,030,000	資料作成費	181,162
同窓会年会費	2,248,500	懇親会費	365,500
成人の集い	499,213	会誌発行費(15,000部)	2,807,082
会費	184,000	銀友制作費	1,453,290
学園側負担金	315,213	宛名印刷費	148,517
本郷祭同窓会懇親会会費	108,000	ラッピング費	258,942
懇親会会費	321,000	発送費	868,364
理事会	150,000	編集諸経費	77,969
総会	171,000	行事部門	2,582,452
寄付	100,000	成人の集い	869,640
雑収入	12	本郷祭同窓会展費	329,063
		本郷祭同窓会懇親会費	142,500
		同期会開催支援費(活性化)	142,063
		活躍した生徒への激励費	850,000
		卒業生記念品費	151,500
		学園懇親会費	97,686
		会員名簿保守管理費	220,453
		ホームページ年間契約料	53,056
		運営委員会交通費補助	200,000
		事務費	202,655
		備品費	0
		消耗品費	58,967
		資料作成費	42,424
		通信費	42,481
		雑費	58,783
		支出合計	6,612,360
		次年度繰越金	3,788,390
合 計	10,400,750	合 計	10,400,750

預貯金・現金明細

(単位：円)

銀行・他	預貯金残高	定期預金	次期繰越金
三菱UFJ銀行	3,445,509	0	
郵貯銀行	203,810	0	
現金	139,071		
合 計	3,788,390	0	3,788,390

収入の部及び支出の部について、各科目ごとに伝票・領収書等の帳票類を精査したところ、それぞれ適正に誤りなく仕付けられ、整理されていた。また、期末での現金残高及び金融機関への預金残高も相違なく確認した。したがって、2017年度の収支決算は公正かつ妥当なものであると認め、ここに報告する。

2018年4月19日 監事 木塚順夫 熊木宏治

2017年度定期総会報告

山際幸雄 1966年=昭和41年卒業 (高校18回生)

日時…2017年(平成29年)
6月17日(土)午後3時
会場…本郷学園1号館2階会議室
出席者…45人

立入健司運営委員(1974年(昭和49年)卒業)高校26回生)が司会を務め定期総会の開始を告げる。

まず、佐久間昭浩校長が学園の近況や各分野で活躍する生徒たちの学園生活を紹介した。

そのあと、南谷修同窓会会長(1956年(昭和31年)卒業)高校8回生)があいさつに立ち、今年度の大学入学試験実績に触れ、東京大学10名、京都大学4名を始め国公立大学に107名が合格し、私立大学入試においても早稲田大学116名、慶応大学94名など多くの有名私大に合格していることを紹介した。その上で、各分野における全国規模の大会等で活躍した生徒42名(9件)を表彰したことなど、昨年度の同窓会事業の概要を報告した。終わりに、同窓会の目的を語り、「皆さまのご理解を頂き、ご尽力ご協力をお願いしたい」と要望した。

総会は、会則にもとづき南谷会長が議長を務め、議長が議事の開会を宣言し、総会の書記に小室能広副会長(1956年(昭和31年)卒業)高校8回生)、山際幸雄運営委員(1966年(昭和41年)卒業)高校18回生)、総会の議事録署名人に梶徳治運営委員(1968年(昭和43年)卒業)高校20回生)、立入健司運営委員を指名し、議事に入る。

第1号議案 理事・役員人事の件

議長から第1号議案が提案され、別紙総会資料(「銀友」46号37頁掲載)の「本郷学園同窓会役員(案)」に基づき、秋元幹夫副会長(1955年(昭和30年)卒業)高校7回生)が説明し、運営委員1人と理事8人の新任役員(丸印)を全会一致で承認した。

第2号議案 2016年度事業報告の件

議長から第2号議案が提案され、別紙総会資料(「銀友」46号32、33頁掲載)の「2016年度 事業報告」に基づき、秋元副会長が事業の概要を報告した。続いて、生徒への表彰について別紙総会資料(「銀友」46号36頁掲載)「2016年度 表彰報告」を秋元副会長が説明し、同窓会活性化担当の井上栄三郎副会長(1958年(昭和33年)卒業)高校10回生)からは「成人の集い」同期会開催支援について、また、「本郷祭」の同窓会展示について山際運営委員が報告をした。さらに同窓会誌「銀友」第45号発行について市倉洋一副会長(1960年(昭和35年)卒業)高校12回生)、同窓会ホームページの管理について野口貴洋運営委員(1983年(昭和58年)卒業)高校35回生)が、それぞれ説明した。

第3号議案 2016年度収支決算の件

議長から第3号議案が提案され、別紙総会資料(「銀友」46号33頁掲載)の「2016年度収支決算報告書」に基づき、秋元副会長が報告した。次いで、熊木宏治監事(1960年(昭和35年)卒業)高校12回生)が、2016年度会計について、4月13日(木)に監査を行った結果、「2016年度の

収支決算は公正かつ妥当なものである」と報告した。

ここで第2号、第3号議案を語り、質疑のあといずれも全会一致で承認した。

第4号議案 2017年度事業計画(案)の件

議長から、第4号議案が提案され、別紙総会資料(「銀友」46号30、31頁掲載)の「2017年度 事業計画(案)」に基づき、秋元副会長が概要を説明した。さらに、同窓会の活性化事業について井上副会長、「本郷祭」同窓会展示について山際運営委員、同窓会誌「銀友」第46号発行について市倉副会長、ホームページの管理について野口運営委員が、それぞれ説明した。

第5号議案 2017年度収支予算(案)の件

議長から、第5号議案が提案され、別紙総会資料(「銀友」46号31頁掲載)の「2017年度収支予算案」に基づき、秋元副会長が説明した。ここで第4号、第5号議案を語り、質疑のあといずれも全会一致で承認した。

この議事を明確にするため、別紙総会資料を添付して本議事録を作成し、議長ならびに議事録署名人が左に署名する。

2017年6月17日 本郷学園同窓会

議長 南谷 修

署名人 梶 徳治

署名人 立入 健司

2017年度表彰報告

各分野における全国規模の大会等で活躍した生徒たちを表彰(15件)

1. 第53回全国高等学校将棋選手権大会

に東京都代表として出場
場ハ佐成優君▽



藤爽吾、中根康介、岡本亮太郎、渡邊琉斗、上田輝、磯崎竜之介、松永大輝、關田久蔵、小島慎太郎、日高新君▽(以上2件6月14日表彰)

4. 第56回東京都中学校総合体育大会陸上競技選手権大会「男子」

低学年4×100mリレー」で優勝ハ谷田光太郎、諏訪仁哉、城野哲郎、安藤晴輝、持田優達、板垣心陽君▽



6. 応援委員会

各種の学校行事運営への貢献が顕著なため



2.

第68回関東中学ラグビーフットボール大会で準優勝(東京都中学校ラグビーフットボール春季大会で優勝し出場)ハ野春馬、鈴木寛征、岡村圭悟、佐々木柁、白井響、吉村隆志、原田琉宇、

3.

フェデラル・エクスプレス(株)と公益財団法人ジュニア・アチーブメント日本主催「ジュニア・アイデア・コンテスト/インターナショナル・トレード・チャレンジ2017」の課題インジドに家庭用品を販売するマーケット参入戦略を立案せよ」で決勝に進み4位入賞ハ(高校)窪田大飛、日笠裕貴君▽

榎原旺介、神谷英佑、渡邊勇太、梶原岳人、中谷波一土、森雄琉、新井裕介、笠原凌大、伊



5.

第63回全日本中学校通信陸上競技東京大会「男子」

低学年4×100mリレー」で優勝ハ谷田光太郎、諏訪仁哉、城野哲郎、安藤晴輝、持田優達、板垣心陽君▽



7.

吹奏楽部各種の学校行事運営への貢献が顕著なため(以上5件9月16日表彰)



8.

第37回東日本中学校ラグビーフットボール大会に(東京都中学校ラグビーフットボール秋季大会で優勝し)出場ハ鈴木寛征、岡村圭悟、佐々木柁、白井響、吉村隆志、原田琉宇、榎原旺介、神谷英佑、渡邊

9

第70回東京都中学校支部対抗陸上競技選手権大会「中学2年男子4×100mリレー」で



勇太、上野春馬、梶原岳人、中谷波一土、森雄琉、新井裕介、笠原凌大、岡本亮太郎、中根康介、安藤健人、渡邊琉斗、上田輝、磯崎竜之介、松永大輝、關田久藏、小島慎太郎、日高新君▽



優勝△安藤晴輝、持田優達、野村航佑、吉野晃平、板垣心陽、白井大生君▽
(以上2件11月18日表彰)

11

第12回「科学の芽」奨励賞を「ニュートンピーズ」のメカニズムの解明」の研究題目で受賞
△(高校) 白居幸希君▽



10

第12回「科学の芽」賞を「コップから流れる水の形」の研究題目で受賞△(中学) 岡野修平、原田大希、塚越新君▽



12

第12回「科学の芽」努力賞を「蠟燭振動のメカニズムの解明 第3報」の研究題目で受賞△(高校) 榎本宗一郎君▽
(以上3件1月20日表彰)



13

第14回日本物理学会Jr.セッションに「蠟燭振動のメカニズムの解明 第4報」の研究題目で出場し奨励賞を受賞△(高校) 榎本宗一郎、秋吉翔太君。(中学) 高橋拓実、中尾勇太君▽



14

第14回日本物理学会Jr.セッションに「ニュートンピーズのメカニズムの解明」の研究題目で出場し優秀賞を受賞△(高校) 白居幸希、青木大輔君。(中学) 吉原直輝、赤澤住、堀田悠真、江花一樹君▽



15

第14回日本物理学会Jr.セッションに「コップから流れる水の形」の研究題目で出場し奨励賞を受賞△(中学) 岡野修平、原田大希、堀越新、笠井圭太君▽
(以上3件3月15日表彰)



本郷学園同窓会役員(案)

任期：2021年度定期総会まで

役職	氏名	卒業年	卒業回期	役職	氏名	卒業年	卒業回期
名誉会長					小倉義雄	1966 (昭和 41) 年	高校 18
	松平頼武	(学園理事長)			宮沢正喜	1966 (昭和 41) 年	高校 18
会長・理事					関塚正治	1968 (昭和 43) 年	高校 20
	南谷 修	1956 (昭和 31) 年	高校 8		内山正敏	1968 (昭和 43) 年	高校 20
副会長・理事					中田守喜	1969 (昭和 44) 年	高校 21
	秋元幹夫	1955 (昭和 30) 年	高校 7		堀井貞夫	1969 (昭和 44) 年	高校 21
	小室能広	1956 (昭和 31) 年	高校 8		染谷幸雄	1970 (昭和 45) 年	高校 22
	市倉洋一	1960 (昭和 35) 年	高校 12		砂泊照男	1971 (昭和 46) 年	高校 23
	山際幸雄	1966 (昭和 41) 年	高校 18		押田松児	1971 (昭和 46) 年	高校 23
監事					小堀義光	1971 (昭和 46) 年	高校 23
	木塚順夫	1956 (昭和 31) 年	高校 8		田中良一	1972 (昭和 47) 年	高校 24
	熊木宏治	1960 (昭和 35) 年	高校 12		中嶋健至	1973 (昭和 48) 年	高校 25
顧問					石井聖一	1973 (昭和 48) 年	高校 25
	佐久間昭浩	(校長)			平野隆之	1974 (昭和 49) 年	高校 26
	山内英夫	1951 (昭和 26) 年	高校 3		鈴木利一	1975 (昭和 50) 年	高校 27
相談役					大蔵利文	1976 (昭和 51) 年	高校 28
	宮本幸雄	1942 (昭和 17) 年	中学 15		岡野智彦	1976 (昭和 51) 年	高校 28
	玉川 昭	1945 (昭和 20) 年	中学 19		神谷秀行	1976 (昭和 51) 年	高校 28
	植松隆吉	1951 (昭和 26) 年	高校 3		川俣 弘	1976 (昭和 51) 年	高校 28
運営委員・理事					馬島善宏	1976 (昭和 51) 年	高校 28
	新澤米次	1956 (昭和 31) 年	高校 8		泉 昇一	1977 (昭和 52) 年	高校 29
	井上栄三郎	1958 (昭和 33) 年	高校 10		塚本雅一	1977 (昭和 52) 年	高校 29
	竹村義教	1960 (昭和 35) 年	高校 12		鶴坂宏文	1977 (昭和 52) 年	高校 29
	梶 徳治	1968 (昭和 43) 年	高校 20		松本伸行	1980 (昭和 55) 年	高校 32
	赤井健郎	1970 (昭和 45) 年	高校 22		清水一郎	1980 (昭和 55) 年	高校 32
	野田悠二	1972 (昭和 47) 年	高校 24		竹野谷茂	1983 (昭和 58) 年	高校 35
	千野邦雄	1973 (昭和 48) 年	高校 25		佐々木晋一	1985 (昭和 60) 年	高校 37
	立入健司	1974 (昭和 49) 年	高校 26		岡本明久	1988 (昭和 63) 年	高校 40
	米澤 潤	1980 (昭和 55) 年	高校 32		移川真男	1990 (平成 2) 年	高校 42
	野口貴洋	1983 (昭和 58) 年	高校 35		下村大樹	1993 (平成 5) 年	高校 45
	小池武次	1983 (昭和 58) 年	高校 35		佐藤憲一	1993 (平成 5) 年	高校 45
理事					野村竜太	1994 (平成 6) 年	高校 46
	野木惣市	1945 (昭和 20) 年	中学 19		杉下和行	1996 (平成 8) 年	高校 48
	地曳秀雄	1951 (昭和 26) 年	高校 3		薄井健吾	1997 (平成 9) 年	高校 49
	津久田愛之助	1954 (昭和 29) 年	高校 6		池田貴生	2005 (平成 17) 年	高校 57
	渡辺昭義	1954 (昭和 29) 年	高校 6		宮川 元	2005 (平成 17) 年	高校 57
	岡本信也	1958 (昭和 33) 年	高校 10		關田宗範	2011 (平成 23) 年	高校 63
	久保國男	1960 (昭和 35) 年	高校 12		田口雄飛	2013 (平成 25) 年	高校 65
	高田隆義	1963 (昭和 38) 年	高校 15		増本洋行	2015 (平成 27) 年	高校 67

学園だより

本郷高校 2018 年大学入学試験合格実績

大学名	計	現役
国公立・大学校		
東京	17	13
京都	3	3
一橋	10	7
東京工業	10	8
北海道	3	3
東北	1	1
大阪	1	
帯広畜産	1	1
岩手	1	
山形	1	1
筑波	6	4
群馬	1	
埼玉	2	1
千葉	5	5
東京医科歯科	1	
東京学芸	5	5
東京農工	4	3
東京海洋	2	1
電気通信	1	1
首都大学東京	2	2
横浜国立	3	2
横浜市立	1	1
新潟	1	
富山	1	
山梨	1	
名古屋工業	1	
香川	1	
長崎	1	
埼玉県立	1	
防衛	3	3
防衛医科	1	1

大学名	計	現役
私立		
早稲田	118	67
慶応義塾	74	52
上智	37	22
東京理科	92	76
明治	126	88
青山学院	14	9
立教	25	12
中央	41	24
法政	40	23
学習院	7	6
愛知医科	1	
麻布	1	1
岩手医科	1	1
奥羽	1	
神奈川	4	3
金沢医科	4	1
関西学院	1	
北里	3	2
杏林	3	
工学院	3	2
國學院	8	5
国際医療福祉	6	3
国際基督教	1	1
国士舘	1	
駒澤	8	7
埼玉医科	7	3
産業能率	1	1
芝浦工業	40	36
順天堂	4	
昭和	5	3
昭和薬科	1	1
成蹊	5	2
成城	6	1
専修	15	12
大正	3	

大学名	計	現役
私立		
大東文化	3	
千葉工業	7	5
帝京	4	3
帝京科学	1	1
帝京平成	2	1
東海	7	4
東京医科	3	2
東京経済	1	
東京工科	1	1
東京慈恵会医科	2	1
東京電機	10	7
東京都市	10	7
東京農業	6	2
東京薬科	3	3
同志社	3	2
東邦	7	2
東洋	7	1
獨協医科	3	
日本	55	40
日本医科	3	1
日本歯科	1	1
日本獣医生命科学	1	
文教	1	1
星薬科	5	3
北海道医療	1	
松本歯科	1	
武蔵	5	4
武蔵野	1	
明治学院	13	5
明治薬科	3	3
名城	1	1
明星	1	
山梨学院	1	1
立命館	3	2
流通経済	1	1

(2018年4月7日現在)

本郷学園同窓会
会費納入者一覧

2018年(平成30年)

3月31日現在

卒業同期 氏名(敬称略)

中 18 中 17 中 16 中 15 中 14 中 13 中 12 中 11 中 10 中 9 中 8 中 7 中 6 中 5 中 4 中 3 中 2 中 1

高島 志田 大沢 今里 青戸 新井 和気 益田 高野 尾前 秋田 鶴見 小永 木村 根本 中村 勝 橋 鈴木 景山 太田 阿部 石原 鈴木 笹岡
三公 芳久 肇 隆 五十嵐 将保 正治 修 泰 元 広 禮 一 俊 暹 宮 卓 美 敬 正 和 正 敏 一 雄 英 一 夫 武

高 2 高 1 中 22 中 21 中 20 中 19

坂野 小倉 野内 井筒 小林 柄澤 大下 宮本 鈴木 市川 伊澤 山下 久永 橋本 羽山 鶴岡 佐藤 小林 大塚 大屋 市川 保谷 野木 高橋 高木 下川 貝塚 大野 浅原 阿田 渡辺 波部 森 宮沢 藤田 仲野 重義
重一 悦雄 長三 千秋 昭雄 敏郎 喜三郎 保 芳 隆 幸 公 健 俊 昌 豊 康 恒 六 高 三 孝 一 敬 朗 明 弘 久 義 夫 信 義 一 正 徳 日 出 豊 一 弘 治 邦 夫 重 義

高 6 高 5 高 4 高 3

小林 後藤 蔵田 柏村 大西 小椋 奥村 漆間 稲垣 山谷 片桐 市村 井沢 佐々木 八嶋 鈴木 吉田 山口 望月 根本 長崎 坂田 齊藤 遠藤 石川 宮野 羽生 沼田 高橋 瀬川 櫻井
金則 順夫 尚 喜徳郎 新治 美代智 一 茂 秀 泰 利 洋 幸 一 仲 二 清 直 剛 武 政 富 義 孝 光 英 敏 伸 一 秀 一 実 邦 博 一 達 夫 貞 隆 真 三 圭 佑 敬 一 東 洋 一 登 男

高 8 高 7 高 6 高 5 高 4 高 3 高 2 高 1

山本 南谷 前田 藤巻 深澤 西田 新澤 小室 木塚 金子 小野 小幡 五十嵐 稲葉 山内 宮崎 益川 高橋 鈴木 石井 石井 香 松 根 中 寺 津 津 仙 関 関 鈴木 霜 篠
賢 修 一 武 彦 健 三 勝 正 秀 幸 米 次 順 夫 隆 一 隆 一 昌 久 資 幸 研 治 靖 司 信 夫 健 三 郎 延 好 尚 敏 幹 夫 二 郎 哲 也 昭 幸 司 光 夫 一 義 夫 一 栄 一 栄 一 桂 三 忠 志 修 雄 貞 一 惣 一 郎 喜 三 郎

高 12 高 11 高 10 高 9

竹村 高好 久保 木村 亀井 渡辺 大槻 飯田 市倉 伊奈 阿久津 赤塚 小池 太田 山崎 山崎 八木 津原 福住 林田 中河 津原 紀 岡 上 井 泉 岡 井 青 岡 明 西 田 川 島 川 風 江 芥 渡
義 俊 國 忠 一 好 之 勝 幸 洋 一 伊 信 行 雅 弘 善 夫 弘 祐 尚 夫 山 崎 長 幸 波 部 長 幸 八 木 橋 幸 実 八 木 橋 幸 実 津 原 巖 有 弘 秀 行 林 田 有 弘 中 河 秀 行 津 原 巖 功 弘 之 上 岡 俊 一 小 川 紘 一 泉 澤 賢 一 岡 本 實 也 井 上 栄 三 郎 青 木 弘 三 比 企 正 晴 西 江 正 晴 田 中 泰 夫 島 村 好 明 川 崎 孝 昭 田 辺 幹 昭 風 間 博 江 原 森 太 郎 芥 川 定 義 渡 邊 茂 明

高 18 高 17 高 16 高 15 高 14 高 13

秋山 林家 中村 塚越 池田 小原 上島 峯岸 杉山 笹山 笹岡 倉田 新田 江田 池田 芦原 山田 野間 田中 齊藤 清川 加毛 岡本 岡田 明石 相川 吉原 向井 西野 中川
隆 俊 輝 憲 夫 啓 一 明 邦 治 敏 幸 桂 義 勝 正 隆 一 雅 一 義 臣 勝 義 安 田 勝 義 江 田 清 雅 彦 健 一 則 網 英 昭 野 間 久 清 弘 毅 輝 洋 吉 康 臣 武 勝 敷 正 幸 安 邦 清 夫 孝 哉 達 朗 史 朗 保 博 幸 平

高 20 高 19
 小林 梶 大野 飯山 北原 増山 沼尻 中村 坂寄 木下 石原 稲垣 秋葉 吉尾 矢吹 山際 村井 三浦 宮沢 根木 田原 丹波 舘野 酒井 櫻井 榊原 小松 倉持 黒石 貝塚 飯郷 板倉 足立
 基展 徳治 英治 勝美 二正 誠久 照久 幸恵 卓博 薫 吉昭 茂男 崇光 富雄 正照 興平 文一 幸雄 淳二 正喜 輝久 克人 信三郎 喜三郎 久雄 与四郎 秀樹 利雄 康夫 勉 良栄 正治 文雄 清 正義 勝彦 日田男 恵一

高 23 高 22 高 21
 押田 新井 瀬賀 柴田 蔵田 岡村 遠藤 赤井 森田 早川 中田 豊田 鈴木 鈴木 杉山 砂田 小松 大房 遠藤 磯部 荒井 小菅 森田 宮田 古川 古川 蛭田 西原 戸張 寺田 瀨崎 関塚 櫻井 齋藤 佐々木
 松児 康友 春雄 秀利 昌明 隆 達哉 健 健郎 貞夫 盛男 守喜 茂徳 英世 利博 敏行 俊雄 正明 健介 文章 章登 雄一 邦雄 順一 知男 英一 茂俊 和夫 薫 義樹 友晴 良三 正憲 完治 康二 盛泰 正紀

高 27 高 26 高 25 高 24
 戸張 丸田 原忠 並木 佐藤 岡村 岩崎 稲垣 溝口 堀 平野 花島 庭野 戸部 柴 笹沼 山口 山田 中田 千野 佐野 春日 石井 井口 村上 松島 野田 進藤 澤村 湯本 砂泊
 力 俊之 伸幸 嗣男 吉伸 正美 桂晃 登 善人 清一 隆之 昭司 良晴 久人 庄次 健司 弘 博之 嘉之 宗喜 邦行 貞男 鉄夫 聖一 茂雄 哲也 信夫 悠二 良一 久幸 晃 茂 照男

高 33 高 32 高 31 高 29 高 28
 磯田 天沼 青木 山崎 原 永堀 竹内 清水 石倉 石井 橋本 馬溪 富永 川崎 石坪 川崎 藤井 豊田 田村 高木 菅野 木田 飯泉 石塚 磯ヶ谷 伊東 山本 松井 須藤 須崎 亀山 岡野 井口
 浩之 嘉章 潤二 宏樹 義秀 滿輝 均 剛次 伸 尚弘 文有 耕治 英貴 雅弘 敏治 俊和 敬一 弘一 彰裕 実 満夫 和弘 伸彦 博忠 幸彦 孝安 智彦 隆

高 37 高 36 高 35 高 34
 小野寺 直井 松本 田邊 齋藤 萩谷 西島 下鳥 加藤 美谷 野口 野小 小池 河合 江利 山岡 佐々木 藤本 宮崎 平澤 林 明妻 吉田 吉田 本郷 福島 西野 並木 中野 戸谷 高橋 杉野 齋藤 小林 小口 奥田 遠藤 宇賀神 岩田
 和彦 正人 圭一 淳 卓也 功 豊 島 信久 貴洋 武次 典 一 和彦 昭夫 由紀夫 淳 俊明 正道 秀樹 勝也 善紀 洋一 成 康克 秀明 正純 卓夫 邦夫 千秋 善 茂 実

高 42 高 41 高 40 高 39 高 38
 藤原 吉川 田村 花田 林 井上 高瀬 紙谷 関谷 小松 岡本 重川 金子 田中 矢嶋 藤原 春日 清水 梶 木村 古賀 守屋 高木 柴山 名倉 佐々木 矢島 前沢 城川 秋山 小澤 根岸
 潤一 伸也 裕一 憲彦 慎也 貴行 昌孝 知博 淳一 隆之 直人 慎太郎 明久 一人 孝志 純一 良史 史孝 真人 伸樹 明 秀樹 健一 淳 巖太 好 晋一

- | | |
|--------|--------------|
| 永野 友基 | 回期等 不明者 |
| 中野 幸英 | コバヤシ シンイチロウ |
| 安田 直樹 | ナカムラ コウジ197 |
| 星野 翔 | ナカノ ジロウ |
| 阿部 周平 | ミムラ ジュンコ19 |
| 窪西 達哉 | タカハシ イイチ 198 |
| 川上 貴亮 | スズキ ヤスヨシ |
| 岸野 達也 | オオタ リヨウイチ19 |
| 蜂谷 武弘 | フジモト ユウキ 05 |
| 河間 雄貴 | サイトウ マサツグ |
| 小川 稜 | ナカオ マサノリ |
| 立花 光陽 | コシヤウ キヨシ |
| 藤本 侑生 | サカイ コウイチ 196 |
| 木原 佑斗 | オクムラタカユキ コウ3 |
| 鈴木 凌 | ウダ ジュンヤ |
| 中村 陽太 | フクシマ ヨシフミ |
| 長尾 優真 | イノウエ タダヒサ |
| 永山 将太郎 | サトウ ヒトシ |
| 森泰斗 | SANO ダマサアキ ノ |
| 保島 紀信 | ツカモト マサカズ |
| 西川 健太郎 | TAKESHI YAMA |
| 島中 晃平 | ホンヤ ヒロシ |
| 辻 祐樹 | |
| 豊福 悠太 | |
| 佐竹 優樹 | |
| 八百板 拓海 | |
| 山下 将吾 | |

訃 報

謹んでご冥福をお祈り致します
同窓会にご連絡のあった方のみ掲載しております

- | | |
|--------|--------|
| 久住 進一 | 宮沢 信恵 |
| 後藤 嘉徳 | 武藤 泰夫 |
| 山口 一弘 | 土田 昭三 |
| 川上 正美 | 永井 四郎 |
| 高野 正 | 倉田 桂二郎 |
| 川上 昌弘 | 岩崎 雄蔵 |
| 前田 留三郎 | 井島 佳二郎 |
| 川上 仁 | 高松 紀夫 |
| 藤堂 昭治 | 小川 文則 |

- | | |
|-------|-------|
| 手塚 重世 | 八巻 清隆 |
| 宮田 力一 | 岩澤 和人 |
| 村山 龍美 | 反町 光一 |
| 高 34 | 高 35 |
| 山田 正雄 | 高島 浩一 |

納入者数 817人

※万全を期したつもりですが、万が一、お名前などの漏れや誤字、脱字などの間違ひがありましたらご容赦ください。FAXでご一報いただければ幸いです。

FAX
03-617-0007



「染井能舞台バート2..舞台披き」をまとめた動機は、本郷の先輩の方々との交流を通じて、折々に染井能楽堂の思い出話を聞かされたからです。もともと実感が持てる、形として見える証拠を残して後世に語り継ぐ、その橋掛かりにしたいと強く願ったからにはほかなりません。

最初は能楽を何も知らず探り、染井能楽堂に関わるものなら何でもインターネット検索や図書館で探しました。小津安二郎監督の映画『晩春』に登場する謡曲「杜若」が、染井能楽堂で演じられたと知るや、『杜若』の謡跡とされる愛知県知立市の八橋も訪れました。

やみくもに調べていたものから脈を見つめるきっかけをくれたのが、本郷の大先輩である能楽師の亀井俊一さんでした。舞台披きの番組を見せたところ、ああ、この人は誰々とすらすと語ってくださいました。

この舞台披きを深く掘り下げてみようと思立ち、国会図書館などに数か月間ほど足しげく通い、出演者の人物と交流関係がわかる資料を探してみました。

全出演者の特定にはいたらず、学術的な誤りもあるかと思いますが、染井能楽堂と能楽については引き続き調べていきたいと思えます。

(N)

本郷学園校歌

Allegretto marciale

あ あ わ れ ら 誇 り の 本 郷 学 園
 こ こ ろ は 剛 毅 に 身 は 強 健 に
 さ ら ば 固 め よ 処 世 の も と い
 つ と め ば 未 来 に 何 え せ ざ ら む
 あ あ 柱 苗 木 の 青 年 わ れ ら
 あ あ わ れ ら 誇 り の 本 郷 学 園
 国 の 柱 の 苗 木 を 育 つ
 今 は 学 園 こ こ に 開 け て
 と り わ け 紅 葉 の 錦 に 知 ら る
 む か し は 植 樹 の 名 ど こ ろ 染 井

作詩 坪内逍遙
 作曲 信時潔

南



本郷祭(学園文化祭)を同窓生交流の場に

— 9月15日(土)、16日(日) —

同窓会展示室を開設(当日のプログラムでご案内します)

《当日は同期会・クラス会・部活OB会などの集合場所にご利用ください》

同窓会懇親会を開催 9月16日(日)15:00~17:00

会 場：三菱養和会巣鴨スポーツセンター2階「レストランバルテール」

会 費：3,000円

※ 展示室で利用券を受け取りご参集ください